

海津市地域福祉活動計画

令和 8 年度

地区福祉活動計画



社会福祉法人 海津市社会福祉協議会

目 次

1 地区福祉活動計画について

1. 策定の目的	3
2. 「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」との関係	3
3. 活動計画策定の流れ （問題の把握→協議・計画策定→実行→評価）	4

2 地区福祉活動計画 （10地区）

1. 計画の期間	7
2. 見直しの時期	7
3. 地区福祉活動計画（10地区）	8
① 高須地区	9
② 吉里地区	19
③ 東江地区	25
④ 大江地区	33
⑤ 西江地区	43
⑥ 今尾地区	51
⑦ 海西地区	57
⑧ 下多度地区	65
⑨ 城山地区	81
⑩ 石津地区	91

資料1 海津市地域福祉推進計画

計画の策定にあたって	104
計画の基本理念と基本理念と施策体系	106

資料2 地区社会福祉協議会

1. 地区社会福祉協議会（地区社協）とは・・・	108
2. 地区社協の役割	108
3. 市社会福祉協議会と地区社協の関係	109
4. 地区社協設立の経過	109
5. 地区社会福祉協議会連絡会	109
6. 地区社協の活動	110

第 1 章

地区福祉活動計画について

1. 策定の目的

海津市では、市の施策や考え方を位置づけた「地域福祉計画」と、市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）の取組みを位置づけた「地域福祉活動計画」に基づき、3期にわたって地域福祉を推進してきました。

令和5年3月に策定した地域福祉推進計画は、社会経済情勢や市民ニーズなどの変化を踏まえつつ、複雑化・複合化した福祉課題に対応するため、市と市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）が連携を図り、実効性の高い施策を展開する必要があることから、市の「地域福祉計画」と市社協の「地域福祉活動計画」を一体化しました。地域福祉推進計画では、自助（自分でできること）、互助・共助（地域住民同士がささえあう）、公助（行政サービス）が連携することによって解決する取組みを基本的な考え方としています。

海津市では、市内10の小中学校区で地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」という）が、互助・共助の視点に立って、地域での福祉課題や生活課題への支え合いや助け合いの活動、事業を住民主体で展開しています。

地区福祉活動計画は、地区社協が年度ごとに策定し、地域課題に対する推進方法を自助（自分でできること）、互助（地域でできること）、公助（行政や市社協に依頼すること）の3つの視点でまとめ、役割分担を明確化しています。特に互助については、地区社協が重要な担い手となっていることから、地域を構成するすべての人が、主体的に支え合い、きめ細かな仕組みづくり・地域づくりを進めることができるよう、本計画を策定しました。

2. 「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」との関係

「地域福祉活動計画」と「地区福祉活動計画」は、それぞれの課題を解決する上で相互に補完し合う水平的なパートナーの関係であり、連携連動する計画となります。

また、市社協は、地区社協の運営をバックアップし、基盤強化につながるよう地区福祉活動計画の策定、実施、評価を支援します。

3. 活動計画策定の流れ（問題の把握→協議・計画策定→実行→評価）

①地区の住民が抱えている福祉課題を明確化（問題の把握）

地区内でどのような福祉課題があるのか、地区社協の地域福祉懇談会の中で、住民や当事者、各関係団体等と話し合いの中から明らかにしました。また、必要に応じて福祉課題の把握のための調査を行いました。



②取り組む活動計画の策定（協議・計画策定）

地区社協の役員会、部会等で地区内の福祉課題を分析し、具体的な活動方法を決定しました。住民自身が解決を望んでいるもの等を整理し、“だれが” “いつ” “どのように” 取り組むのかを明らかにし、解決するための活動計画を立案しました。住民や各種団体との連携、役割分担、PR の方法等を検討するとともに、地域住民に問題を提起し、解決のために理解と協力を求めました。



③年間計画に沿った事業、活動の実施（実行）

各地区で年間計画に沿った事業を行いました。各地区社協の役員、運営委員、部会員など、住民主体で活動を行いました。



④事業の見直し（評価）

地区社協において、活動計画に基づき事業が実施されていますが、その事業の日常的かつ継続的な点検及び評価が必要不可欠です。点検及び評価をすることで、事業を見直すきっかけになり、新規事業の掘り起こしにもつながります。さらに、「地域福祉活動計画」の評価にも有効なものになります。年度末には事業の見直しを行い、次年度の事業の計画を策定します。

第 2 章

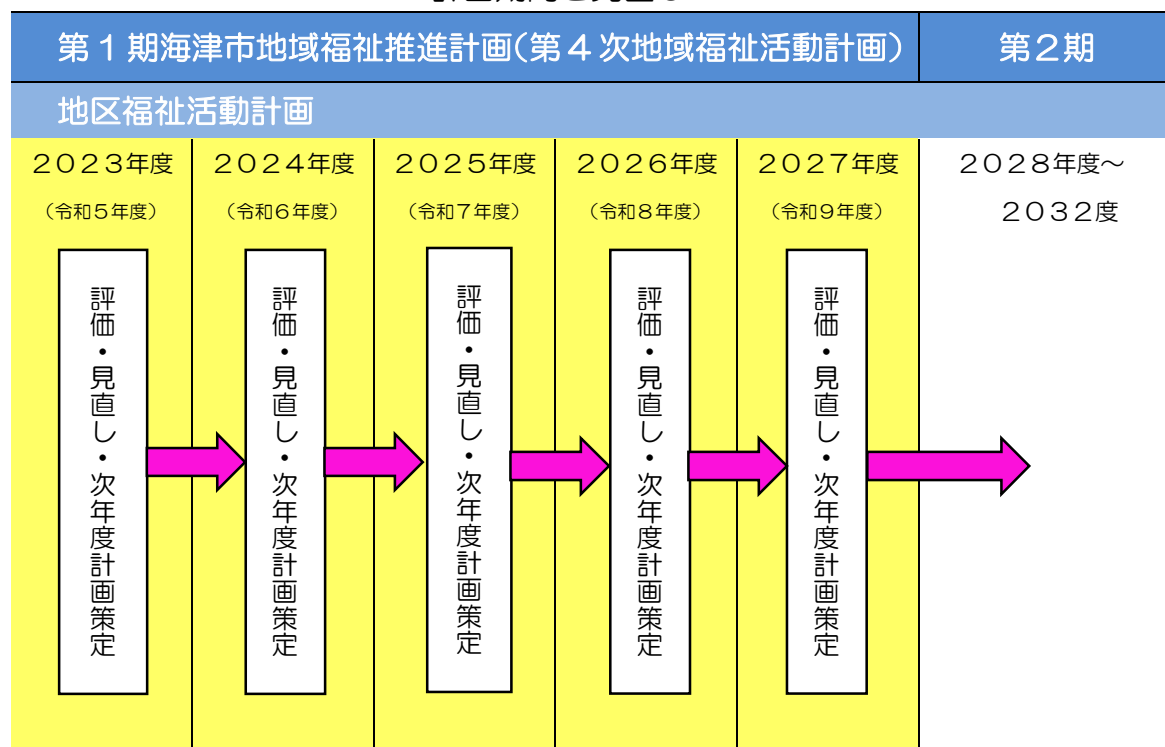
地区福祉活動計画（10地区）

1. 計画の期間

「第1期海津市地域福祉推進計画」（第4次海津市地域福祉活動計画）は、2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年間です。

「地区福祉活動計画」は、福祉課題によりきめ細やかな事業を行えるよう、計画の評価・見直し・計画策定を、毎年度行っています。

計画期間と見直し



2. 見直しの時期

見直しは、年度末（2月～3月）に行い、次年度の計画に反映させます。

3. 地区福祉活動計画（10地区）

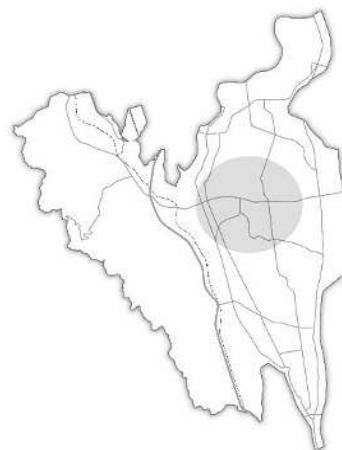
市内10地区社協における「令和7年度地区福祉活動計画評価表」と、「令和8年度地区福祉活動計画」を掲載します。

1

高 須 地 区

【スローガン】

地域の交流を促すために
地域の輪を広げる



【高須地区の人口】

	海津市		高須地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	6,734人	5,402人
対人口比	100.0%	100.0%	17.1%	17.6%
年少人口	5,187人	2,459人	967人	413人
年少率	13.2%	8.0%	14.4%	7.7%
高齢者人口	8,494人	11,512人	1,307人	1,928人
高齢化率	21.6%	37.4%	19.4%	35.7%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	584人	1,066人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	8.7%	19.7%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【高須地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所	高須認定こども園		岡田医院
海津市海津図書館	子育て支援センターかいづ	海津小学校	おおや内科循環器科
海津市市民プール	発達支援センター「くるみ」	日新中学校	小坂井レディスクリニック
海津市消防署	児童発達支援事業所みらい	海津明誠高等学校	とみなり整形外科
海津市OCT文化センター	海津市はばたき (生活介護) (就労継続支援B型)		河村歯科クリニック
木曾三川輪中ミュージアム			高須歯科
海津総合福祉会館「ひまわり」	デイサービスおひさま		水谷歯科クリニック
海津警察署	地域密着型特別養護老人ホーム たかすの華		ひなた在宅クリニック
海津郵便局	オレンジ・ハート (デイサービス) (有料老人ホーム)		
	オレンジ・ライフ (デイサービス)		
	からふる庭園(有料老人ホーム)		

令和7年度 高須地区福祉活動計画 評価表

スローガン	地域の交流を促すために、地域の輪を広げる
-------	----------------------

重点課題	地域のふれあいの活動の機会を逃さず、活動につなげる
------	---------------------------

ブロック活動	推進方法	評価
Aブロック	「地域あいさつ運動」を各自治会において「交通安全街頭啓発巡視」に合わせて実施し、あいさつや見守りの声掛けを通して住民同士のコミュニケーションを図る。	△
Bブロック	自治会長・福祉推進委員・民生児童児童委員・他福祉関係の役員の連携協力を強化する。	○
Cブロック	自治会長や福祉関係の役員の連携協力を強化する。困りごとを把握し、小さな助け合いにつなげる。心ある人の結集を図り、具体的事例を共有し支援する。	○
Dブロック	自治会長・福祉推進委員・民生委員児童委員・他福祉関係の役員の連携協力を強化する。	△
Eブロック	世代間交流のほか、ブロックの課題を見つけて活動につなげる。地域が広く、転入者も多いので、横のつながりを通して地域の温度差を無くしていく。	△

現状及び今後の方針	
Aブロック 地域あいさつ運動 地域福祉懇談会 ハイキング大会	○地域あいさつ運動（原則として月1回）（10回開催） ・のぼり旗を掲げて、朝の登校時のあいさつと見守り活動を月1回行った。自治会に呼びかけて、活動の輪を広げようとしたが、十分な協力は得られなかった。 ○世代間ふれあい交流～ハイキング大会～ ・慎重にハイキングコースを選定した。（Bプラン・11月9日 砂防会館の見学）残念ながら、参加者が少なく、思うような交流会にならなかった。 ○地域福祉懇談会を2月7日に実施して、地域の現状と問題点と課題について話し合った。
Bブロック あいさつ運動 地域福祉懇談会	○あいさつ運動（7月1日～30日、12月1日～19日） のぼり旗を地域内に掲げて、住民に周知するとともに、あいさつすること（声掛け）を意識づける。 クロスプラス交差点であいさつ運動（7月15日・12月15日） ○世代間交流事業は実施できなかった。 ○福祉懇談会を11月8日に行い、地域の現状と問題点と課題について話し合った。
Cブロック あいさつ運動 世代間交流事業 福祉懇談会	○親子で地区内ピッカピカとゲーム（2月22日に実施） ・世代間交流をめざして、ゲーム大会や体操を行った。多くのゲームを用意した。参加者は楽しむことができた。実行委員会は3回実施。 ○あいさつ運動は各自治会で実施、地区社協の期間に合わせて行った。（7月1日～7月15日・12月1日～12月15日・2月22日） ○懇談会は2/22の世代間交流事業の日に行った。特別に日を設けることはなかった。

Dブロック あいさつ運動 世代間交流事業 福祉懇談会	○あいさつ運動（7月1日～7月15日）（9月1日～12月31日）（12月1日～12月15日）（12月15日～12月26日） あいさつ運動期間と地区社協の運動期間に実施した。今年は学校付近での活動が多かった。 ○世代間交流事業 朝のラジオ体操を7月28日～8月1日の5日間実施、参加者は延べ230名であった。6月15日・7月19日に自治会長10名が集まり、実施について打合せ会を開催。 ○懇談会は残念ながら、次年度に持ち越しにした。
Eブロック あいさつ運動 世代間交流事業 福祉懇談会	○あいさつ運動（7月1日～7月15日）（12月1日～12月15日） 地区社協の実施に伴い行った。各自治会に実施方法は委ねた通学路や集会所付近で実施。（7月の運動期間はのぼり旗のみ） ○世代間交流事業 8月17日に平原公園でラジオ体操を実施。多くの参加者があった。 ○地区懇談会は各事業打合せ時に行い、3月15日に実施。 ○「Eブロックだより」を発行した。
高須地区社協として	ブロック活動と部会活動を合わせて概ね実施できた。 ○

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 高須地区福祉活動計画 評価表

スローガン	地域の交流を促すために、地域の輪を広げる
-------	----------------------

重点課題	海津小学校の活動を見据えて、高須地区としての問題や課題を見つけ出し、活動につなげる。
------	--

部会活動	推進方法	評価
総務部会	民生委員児童委員、福祉推進委員、自治会長に対しての学習会（広報を兼ねる）	○
防犯防災部会	①避難訓練の働きかけ、行政の方針との整合性を確認し、各自治会の防災組織の実効性も確認、各地域の防災マップの整備などを行う。 ②危険箇所マップ作成。防犯パトロール。高齢者および子ども中心の防犯教育。 ③情報セキュリティ など参考情報の配布、講演会の実施。	○
生活支援部会	①ちょぼら部との協力 ②広域サロンの開催、他団体との連携や協力 ③他の関連団体との連携	○
イベント交流部会	地域のイベントとの協力や共催の方法を研究する。（主催者・費用・方法など）	○
ちょぼら部会	買い物支援に対しては、市社協の協力（車など）を得て実施してみる。 実施方法として①利用者登録、②出来る事の内容など	○

現状及び今後の方針	
総務部会 あいさつ運動 研修会の開催 小さな助け合い運動 問題点の見直し	・組織、規約の問題点は常に検討。（表彰規程を作成） ・あいさつ運動強調週間を設けて、7月と12月に実施。（啓発用ハガキを送付） ・小さな親切運動は5件ほど表彰する予定。 ・役員の視察研修（2月27日に城山地区社協と研修交流会を実施。）
防犯防災部会 防災活動 防犯活動 交通安全への取り組み	・避難者カードを部内で作成した。 ・自主防災組織の実態調査。高須地区内で19自治会が組織有り。活動は6年間で6自治会で実施。 ・10月25日「防災セミナー」自治会と合同で実施（講師：海津市危機管理室） ・防犯活動としては、「防犯カメラ」の設置について検討。海津警察署から詐欺や交通安全などの寸劇は次年度実施予定。 ・交通安全への「課題の整理・啓発活動」の検討。海津警察署から交通安全などの講話は次年度実施予定。

生活支援部会 コーディネーター会議 部会会議 広域サロン 子育て支援	①部会会議やコーディネーター会議は13回行った。内容だけでなく部会員同士の協力が出来た。 ②「お達者ですかい」を11月22日に、広域サロン（おしゃべりサロン）を3月21日に、イベント部会と合同で実施した。 ③子育て支援活動に関しては、会議で話し合いはできたが、残念ながら実施は、出来なかった。	
イベント交流部会 お達者です会の開催 広域サロンの実施研究 伝統文化の研究	・「お達者ですかい」を11月22日にひまわりで実施。75名の参加者で講話や、お食事会、お楽しみ会を実施した。 ・3月21日にひまわりの談話室で広域サロンを開催、特殊詐欺の寸劇や、お楽しみゲーム、お喋り会を実施楽しい半日を過ごした。 ・伝統文化に関しては、実施出来ませんでした。海津の祭り等を研究する事もいいと思った。	
ちょボラ部会 役員会・部会会議の開催 他団体との合同会議 ちょボラ活動の実施（買い物支援）	・役員会や部会会議を延べ10回開催し、活動の方法や買い物支援に対して打合せを行った。 ・買い物支援サービスは、10回開催、延べ83名の方を支援しました。 帰り道に休憩を挟んだり、花見をしたり、参加者に喜んでいただいた。また、運転する方の安全運転講習は4/24日に実施した。 ・ちょボラ活動は、ゴミ出し・照明器具の取り換え・ちょっと修繕・庭木の選定・片付け・買い物代行・薬の受取など合計5回の活動を行った。 ・代議員との合同会議は3回開催。新しいニーズや、各事業に対しての会議を実施した。	
高須地区社協として	ブロック活動と部会活動を合わせて概ね実施できた。	○

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 高須地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域のふれあいや助け合いの活動の機会を逃さず、活動につなげる
----------------	---------------------------------------

事業名	
Aブロック	①地域あいさつ運動 ②福祉懇談会 ③ハイキング大会
Bブロック	①地域あいさつ運動 ②福祉懇談会
Cブロック	①福祉懇談会 ②世代間交流事業 ③小さな助け合い運動へ協賛
Dブロック	①あいさつ啓発運動 ②世代間交流事業（ラジオ体操） ③福祉懇談会
Eブロック	①世代間健康運動（ラジオ体操） ②地区懇談会

地域の課題（背景）	
Aブロック	災害時の高齢者の自助のためには、まず自身で歩ける体が必要であり、地域での共助のためには、顔見知りであることが重要である。また、子どもたちとも声をかけあえる関係を地域全体で構築したい。
Bブロック	地域の少子高齢化により行事への参加者が減少している。
Cブロック	集まる機会が少なく、孤立化が進んでいる。住民のつながりが弱くなり、状況がつかめないうちに進んできている。
Dブロック	若い人は福祉活動に対し関心が低い。また高齢者世帯やひとり暮らし高齢者も増加しており、自治会や近所の方による見守り活動が必要になっている。
Eブロック	子ども会の活動がなくなり、子育て世代の福祉への関心が薄れている。福祉＝高齢者のイメージが強いが、誰にでも関係があることを伝えていきたい。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
Aブロック	地域での共助（互助）のためには、顔見知りであることが重要である。子どもたちとも声をかけあえる関係を地域全体で構築したい。
Bブロック	自治会長・福祉推進委員・民生委員児童委員・他福祉関係の役員の連携協力を強化を継続する。
Cブロック	自治会長や福祉関係の役員の連携協力を強化する。困りごとを把握し、小さな助け合いにつなげる。心ある人の結集を図り、具体的事例を共有し支援する。
Dブロック	世代間交流事業や福祉活動事業への参加を呼び掛け、福祉活動に関心を持ってもらう。また自治会や福祉関係者が協力し、高齢者の見守り活動を推進する。
Eブロック	世代間交流のほか、子どもたちとのあいさつを含めた交流に心を配る。

自助(私達でできること)	
Aブロック	災害時の高齢者の自助のためには、まず自身で歩ける体が必要である。「体力作り」を目的にハイキングや歩け歩け運動などを行う。
Bブロック	自治会行事や、福祉イベントを地域の方へ参加を呼びかける。
Cブロック	隣近所や親しい人、ひとり暮らしの方への声掛け、小さなお手伝いを実践する。
Dブロック	「あいさつ運動」や「世代間交流事業」を積極的に実施し、地域の方に声かけを行う。
Eブロック	福祉活動に関心を持ち、自分ができることに参加する。近隣にも声を掛ける。

公助(行政や社協に依頼すること)	
Aブロック	円滑な福祉活動を持続するためのシステムづくりに協力、援助
Bブロック	高須地区社協の活動やセミナーなどを地域に広報をお願いしたい。
Cブロック	地区連携の推進方法の学習会、実践方法についての協力と予算面での援助
Dブロック	高齢者の困りごとや相談に対し、アドバイスと協力をお願いしたい。
Eブロック	無理のない活動を維持するためのシステムづくりに協力・助言

令和8年度 高須地区福祉活動計画

重 点 課 題	海津小学校、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などが話し合い、高須地区としての問題や課題を見つけ出し、活動につなげる
---------	---

事業名	
総務部会	①組織・規約の問題点の見直し ②あいさつ運動（7月、12月） ③小さな助け合い運動 ④研修会 ⑤地域福祉活動計画の推進
防犯防災部会	①防災・減災に役立つ活動 ②交通安全運動の推進 ③防犯に関する取り組み
生活支援部会	①「広域サロン」を2回開催。事業主体の検討と話し合い。 ②将来に向け部員の育成と確保。
イベント交流部会	地域全体を対象としたイベントの計画の実行と他団体との協力
ちょボラ部会	ちょっとした助け合い（買い物などの外出支援活動の実施）

地域の課題（背景）	
総務部会	①地区社協、部会、ブロックやその仕組みについてわからない人、知らない人、誤解している人が少なくない。 ②活動の内容や理由も周知されていない。
防犯防災部会	①防災・減災活動は、私たちの地域社会の未来を守るうえで最も重要な課題である。小学校での避難訓練も数年前と同様となっている。行政の長期計画も私たちの活動と関連付けが不透明になっている。各自治会の自主防災組織も休眠組織が多い状態である。 ②地域の危険箇所の把握ができていない。 ③防犯に関する課題の把握ができていない。（詐欺、盗難、窃盗、SNS犯罪、子ども、高齢者など）
生活支援部会	①地区社協、部会について、内容が認知されていない。 ②民生委員児童委員の交代があったので、協力体制が整っていない。
イベント交流部会	高須地区全体でのイベントがない。
ちょボラ部会	高齢者の移動手段の確保が大きな課題になっている。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
総務部会	民生委員児童委員、福祉推進委員、自治会長など、福祉関係推進者が話し合い、福祉の向上に努める。
防犯防災部会	①避難訓練の働きかけ、行政の方針との整合性を確認し、各自治会の防災組織の実効性も確認、各地域の防災マップの整備などを行う。児童と共に避難所開設訓練を実施して、避難者受け入れ態勢を整える手順を体験する。 ②危険箇所マップ作成、防犯パトロール、高齢者および子ども中心の防犯教育。 ③情報セキュリティなど参考情報の配布、講演会の実施。
生活支援部会	福祉関係者が集まる会合などで、話し合いを開催して、お互いに協力できるようにして行く。
イベント交流部会	それぞれの団体同士が、つながる活動の仕組みを作る。
ちょぼら部会	民生委員児童委員や自治会長、代議員と協力し、助けが必要な人の援助を行う。

自助(私達でできること)	
総務部会	定期的な話し合いの場を設ける。
防犯防災部会	自転車などに対する交通反則通知制度（青切符）の周知。
生活支援部会	部会などで意見を出し合い、活動に反映する。
イベント交流部会	所属する団体での活動を、いろいろな機会に広報する。
ちょぼら部会	定期的に会議を開催し、活動内容を共有する。

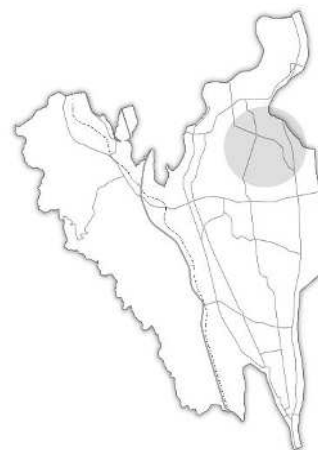
公助（行政や社協に依頼すること）	
総務部会	参考資料などの提供や適切なアドバイスをいただきたい。
防犯防災部会	避難所開設に伴う行政、社協、自治会の役割と活動内容の情報共有協議会を発足。
生活支援部会	適切なアドバイスをいただきたい。費用、会場の確保に協力していただきたい。
イベント交流部会	協力し合える、つながり合える団体の紹介（6/14輪中ミュージアムの見学会を開催予定）
ちょぼら部会	市社協の協力（福祉車両の貸し出し）など、活動へのアドバイス。

2

吉里地区

【スローガン】

絆を深める吉里



【吉里地区の人口】

	海津市		吉里地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	1,965人	1,469人
対人口比	100.0%	100.0%	5.0%	4.8%
年少人口	5,187人	2,459人	223人	116人
年少率	13.2%	8.0%	11.3%	7.9%
高齢者人口	8,494人	11,512人	431人	587人
高齢化率	21.6%	37.4%	21.9%	40.0%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	209人	324人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	10.6%	22.1%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【吉里地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
吉里郵便局	わかば海津北こども園		
吉里体育館	吉里地区社協事務所		
	あいさんハウス・ぎふ (共同生活援助) (生活介護) (短期入所) (就労移行支援) (就労継続支援B型) (放課後等デイ)		

令和7年度 吉里地区福祉活動計画評価表

スローガン		絆を深める吉里
重点課題		たくさんの方にサロンに参加してもらえるようにする
事業名	推進方法	評価
サロン吉里の充実	①参加者について ・当番表を作成して、自治会長、福祉推進委員の方に参加を呼びかける。 ・集う会など計画した活動の参加を呼びかける。 ・事業において、参加しやすい環境を整える	△
	②ボランティアについて ・サロン通信でボランティアの募集を継続的に行う。 ・ボランティアの活動内容をサロン通信で具体的に紹介する。	○
現状および今後の改善点		
・毎回参加者が同じ人になっており、高齢者のみならず若い世代の人の参加を呼びかける。自治会長、福祉推進委員の参加が少ない。 ・サロンに参加していただいた方が、ボランティアに参加していただけると思う。まずは、サロンに来ていただけるように声かけが必要だと思う。 ・自治会長・福祉推進委員の方が増えた行事もあった。参加しやすいような工夫（何かの役割があるとか）がもっとあるといいかもしれない。 ・当番表を作成したり、サロン通信の発行したりと事務局側のサポートありがとうございます。各自治会で温度差があり、協力体制ができていないことは残念。 ・一部の決まった人だけの参加 なかなかいい考えが浮かばないが、みんなが楽しいと思えることを企画・立案する。 ・新しい参加者が増えると嬉しい。サロン参加者の皆さんが今の活動に満足してみえるのかどうか気軽に声が聴けると思う。年度末にアンケートをとって改善点を活かしてはどうか。夏祭りや餅つき大会などのイベントで使う物、プレゼントなどがあれば年間の活動の中に位置付ければ役員の負担も減るし参加される方の充実感もあってよいのではないかなと思う。壁面の飾りづくりなど突発的であったが、よかった。 ・分からない。今の時代ですから。 ・参加していないので評価ができない。 ・サロンに来ている人はほぼ決まっている。もっと多くの人に来てもらうには今来ている人に友人、知人を誘ってもらうようにする。 ・この春訪問対象者が増えるので声掛けをする。 訪問対象者のなかには持病でパートナーも外出困難な家庭が2つある。 ・一度サロン当番で参加した人が何人かのみなさんのお元気な姿を目にして、自分もしっかりしないとこちらが元気をもらった。 ・吉里サロンへ行くのに誰かに乗せてもらえたらいいける。 高齢者がみんなを乗せて行って事故でも起こしたらと思うと何かいい案があったら？ ・会社勤めがあるため率先しての参加が難しい。 ・餅つき交流会を通じて多くの人との交流ができ大変よかった。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 吉里地区福祉活動計画評価表

スローガン		絆を深める吉里
重点課題		地域住民で高齢者への声かけをする
事業名	推進方法	評価
声かけ、見守り活動	①サロンに参加できるように働きかける。 ・サロン通信に活動写真を掲載し、詳しく伝えていく。	○
	②高齢者への見守りや声掛けをする。 ・各自治会を中心に連携推進し、充実を図る。 ・高齢者に声かけを行い、サロンでの活躍できる場を作る。 ・役員同士だけではなく、地域全体で取り組んでいく。	△
現状および今後の改善点		
・サロン通信を現在の紙面からの方法とインターネットでの通信配布を加えるとよい。 自治会長さんが直接声かけをしていただけると良いと思う。田中自治会の何年か前の自治会長が声をかけてくれたことがきっかけで多くの高齢者がサロンに参加していただきました。 ・イベント時だけでなく普段からの各自治会の地道な協力をいただけるとありがたい。 ・サロンに魅力がない。 知人、友人に声掛けをする。 地域の行事の場面で話をする。 隣近所の人と顔を合わせたら声掛けをする。 ・いろいろと難しいと思う。 ・自治会の集まりごとに情報共有を行っている。 ・楽しい（魅力のある）ゲームを行い、多くの人に来てもらえるようにする。 例）スライドストーン（漬物石を使うカーリングのようなゲーム） ・サロン伝言板はよくできている。写真に雰囲気伝える一言を添えると良いと思う。 ・ここ数年、家族、自分の体調面が悪くほとんど活動できなかったため、来年度はしっかり活動したい。 ・皆さんお元気な人はお仕事をされていたり、体が少し不自由になられるとデイサービスに行かれたりとなかなかお誘いづらい。 ・サロン通信回覧時参加を呼びかけているがあまり興味をもていただけない。 ・地区の人々の呼びかけができなかった。 ・なかなか参加できない方への声掛け（民生委員児童委員）※今でもやってみえると思うが		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 吉里地区福祉活動計画

重 点 課 題	たくさんの方にサロンに参加してもらえるようにする
事業名	
サロン吉里の充実	
地域の課題（背景）	
・参加者、ボランティアが固定化されつつある。 ・地域が一つになって何かを作り上げるような活動が少なく、人との関係が希薄になってきている。 ・参加者が高齢化し、施設入所などの理由で減少し参加意欲が低下してきている。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①参加者について ・当番表を作成して、自治会長、福祉推進委員の方に参加を呼びかける。 ・集う会など計画した事業において、参加しやすい環境を整える。 ②ボランティアについて ・サロン通信でボランティアの募集を継続的に行う。 ・ボランティアの活動内容をサロン通信で具体的に紹介する。	
自助(自分でできること)	
・積極的にサロンに参加をする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・出前講座の依頼。 ・先進地などの情報提供。	

令和8年度 吉里地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民で高齢者の声かけをする
---------	-----------------

事業名
高齢者の声かけ、見守り活動

地域の課題（背景）
・ 役員だけでの見守りでは限界がある。 ・ 高齢化が進み、話す機会が少なくなっている。 ・ 高齢者が家に閉じこもりがちになっている。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）
①サロンに参加できるように働きかける。 ・ サロン通信に活動写真を掲載し、サロンの魅力を伝える。 ②高齢者への見守りや声かけをする。 ・ 各自治会を中心に連携推進し、充実を図る。 ・ 高齢者に声かけを行い、サロンでの活躍出来る場をつくる。 ・ 役員同士だけでなく、地域全体で取り組んでいく。

自助(自分でできること)
・ 近隣高齢者などに声をかける。

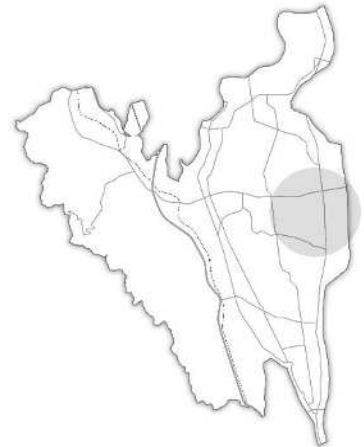
公助（行政や社協に依頼すること）

3

東江地区

【スローガン】

つ長良まいか
心と心のまち 東江



【東江地区の人口】

	海津市		東江地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	2,024人	1,577人
対人口比	100.0%	100.0%	5.1%	5.1%
年少人口	5,187人	2,459人	274人	111人
年少率	13.2%	8.0%	13.5%	7.0%
高齢者人口	8,494人	11,512人	436人	573人
高齢化率	21.6%	37.4%	21.5%	36.3%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	215人	308人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	10.6%	19.5%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【東江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
東江警察官駐在所	東江こども園		歯科加藤医院
東江郵便局			
東江体育館			

令和7年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン	つ長良まいか 心と心のまち 東江
-------	------------------

重点課題	東江地区社協活動の情報が行き届いていない
------	----------------------

事業名	推進方法	評価
東江地区社協普及啓発	①東江地区社協だよりを発行 ・地区社協の活動報告や行事の案内をお知らせする情報紙を年数回発行する。 ・事業の実施以外にも、学校行事や関係団体の紹介や啓発記事を掲載する。 ・役員間でSNS（LINEなど）を使い、地区社協として発信できる情報を共有し、掲載記事を検討する。 ・地区全体に周知するため全戸配布する。 ・編集作業に負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。	×
	②東江地区社協の啓発用品を活用 ・身近にある住民が必ず寄る場所（ゴミステーションなど）に設置された掲示板を有効に活用し、地区社協や地域の行事をお知らせしたりして、情報を提供する。掲示板から提供された情報が、住民同士の会話のきっかけとなるようにタイムリーな情報を掲示する。 ・各自治会長にさまざまな情報の掲示や活用を再度お願いする。	○

現状及び今後の方針	
①地区社協だよりは、担当が事業、行事に参加できなかったこともあり、未発行。また編集の負担も大きく、担当の増員が必要。記事、写真などのデータの提供や編集作業への協力も必要。サロン通信やチラシとあわせての発行も検討が必要。 ②自治会長がそれぞれの自治会の掲示板を活用している。地区社協の行事、サロンの案内など、今後も自治会長に看板の活用を依頼する。なお、自治会によっては修繕が必要な掲示板もあり、地区社協での費用負担を検討する。	

重点課題	高齢者への見守りが不十分である
------	-----------------

事業名	推進方法	評価
高齢者の安全確保	①ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の見守り ・75歳以上、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、年末見守り訪問を実施する。 ・高齢者を対象に、高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」を開催する。 ・実施にあたって自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力をいただき開催する。 ・民生委員児童委員、福祉推進委員を中心とした平素からの見守りを継続する。	○
	②生活安全教室 ・交通安全教室を実施し、地域の事故防止のため住民に参加を呼びかける。 ・海津警察署の協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。 ・悪質商法などを消費生活講座で学ぶ。 ・サロン東江開催時に行えるように検討する。	○

現状及び今後の方針	
①自治会ごとに自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員など、関係者で見守りを行った。また、年末見守り訪問を行った。高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」は、サロンと併せて開催し、好評であった。 ②生活安全教室を単独では開催しなかったが、サロンや軽スポーツ交流会など、事業ごとに、東江駐在所職員が出席し生活や交通安全への指導を行ってもらったので「○」とした。今後も事業や活動への参加をお願いしていく。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 東江地区福祉活動計画評価表

スローガン	つ長良まいか 心と心のまち 東江
-------	------------------

重点課題	子どもの登下校が危険である
------	---------------

事業名	推進方法	評価
子どもの見守り	①東江地区子ども見守り隊 ・小学校からの要請に基づき、見守りの体制を整える。 （集合場所、送迎ルート、送迎時間の確認が必要。各自治会への周知が必要。） ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域住民が協力して見守り活動に参加する。 ・東江地区社協が主体になり、地域住民に見守りを呼びかける。 ・登下校の時間帯以外でも、畑仕事や散歩しながらでも、気軽に見守り活動に参加していただけるよう工夫する。（車の中にベストを吊るすなど） ・見守り活動の際には、防犯の啓発も兼ねて見守りベストを着用し活動する。また、必ず見守りベストを着用するように周知する。 ・見守りボランティア活動への参加を更に周知する。	×

現状及び今後の方針
①小学校も統合となり、また海津小学校からの送迎があるバス停まで家族の見守りもあることから、今まで取り組んできた、通学路での積極的な見守り体制は不要となった。今後もできる範囲内での「ながら見守り」への勧奨は継続するが、事業としては休止とする。

重点課題	世代間のつながりが乏しい
------	--------------

事業名	推進方法	評価
世代間交流事業	①サロン東江の開催 ・月1回サロン東江を開催する。 ・サロンへの参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。 ・月ごとに、地区内の各自治会集会所で持ち回りで行うなど、開催場所を工夫し、参加者を増やす。 ・高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。 ・地区社協として、地域での交流が広がるように、サロンを積極的に推進する。 ・サロン通信、案内チラシを発行する。自治会へ配布する。 ②軽スポーツ交流会を開催する。 ・10月に軽スポーツ交流会を開催する。 ・チラシを作成し、自治会を通じて周知する。 ・自治会をはじめ、諸団体で参加者を募る。とりまとめは自治会に依頼する。 ※地区社協として、自治会での近隣ネットワーク、サロン、いきいきクラブ海津などで三世代交流を推進する。情報提供や参加の勧奨など、地区社協で協力できることを実施する。	○

現状及び今後の方針
①月1回、サロン東江を開催し、交流の場を設けた。今後も自治会の協力を得ながら、周知や啓発に努めていく。高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。 ②参加者も多く、好評であった。次年度以降も東江地区の定期的な行事として、継続していく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度東江地区福祉活動計画

重 点 課 題

東江地区社協活動の情報が行き届いていない

・事業名

東江地区社協普及啓発

・地域の課題（背景）

- ・東江地区社協活動の周知が不足。
- ・東江地区社協への関心が低い。
- ・自治会によって行事への参加に温度差がある。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）

①東江地区社協だよりを発行

- ・地区社協の活動報告や行事の案内をお知らせする情報紙を年数回発行する。
- ・事業の実施以外にも、学校行事や関係団体の紹介や啓発記事を掲載する。
- ・役員間でSNS（LINEなど）を使い、地区社協として発信できる情報を共有し、掲載記事を検討する。
- ・地区全体に周知するため全戸配布する。
- ・編集作業の負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。

②東江地区社協の啓発用品を活用

- ・海津警察署などの協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。
- ・各自治会長にさまざまな情報の掲示や活用をお願いする。
- ・修繕が必要な掲示板については、地区社協内で費用など、検討する。

自助(自分でできること)

- ・東江地区社協の活動情報を広める。

公助（行政や社協に依頼すること）

令和8年度東江地区福祉活動計画

重 点 課 題

高齢者への見守りが不十分である

・事業名

高齢者の安全確保

・地域の課題（背景）

- ・ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯が年々増加している。
- ・地区の役員（民生委員児童委員・福祉推進委員）だけの見守りに限界がある。
- ・地区の高齢者が集い、楽しく過ごす時間がほしい。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）

①ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の見守り

- ・75歳以上の高齢者、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、年末見守り訪問を実施する。
- ・高齢者を対象に、高齢者を囲む会・ひとり暮らし高齢者のつどい「つ長良まいか」を開催する。
- ・実施にあたって自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力をいただき開催する。
- ・民生委員児童委員、福祉推進委員を中心とした平素からの見守りを継続する。
 - ・編集作業の負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。

②生活安全への取り組み

- ・交通安全教室を実施し、地域の事故防止のため住民に参加を呼びかける。
- ・海津警察署などの協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。
- ・悪質商法などを消費生活講座で学ぶ。
- ・修繕が必要な掲示板については、地区社協内で費用など、検討する。

自助(自分でできること)

- ・隣近所のひとり暮らし高齢者や高齢者世帯を日頃から気にかけて、見守っていく。
- ・行事、イベントの際はできる範囲での送迎を行う、声をかける。

公助（行政や社協に依頼すること）

令和8年度東江地区福祉活動計画

重点課題

世代間のつながりが乏しい

・事業名

世代間交流事業

・地域の課題（背景）

- ・自治会単位での世代間交流事業は実施しているが、地区全体の交流がない。
- ・近隣住民の関係が希薄している。
- ・幅広い世代の方に参加してほしい。
- ・参加者を増やしたい。

推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）

①サロン東江の開催

- ・月1回サロン東江を開催する。
- ・サロンへの参加を呼びかけるとともに、積極的に参加する。
- ・月ごとに、地区内の各自治会集会所で持ち回りで行うなど、開催場所を工夫し、参加者を増やす。
- ・高齢者に限らず、子どもや働く世代が参加できるように、開催日時についても検討する。
- ・地区社協として、地域での交流が広がるように、サロンを積極的に推進する。
- ・サロン通信、案内チラシを発行する。自治会へ配布する。
- ・編集作業の負担が大きいため、役員で協力する。また編集の担い手の増員をする。
- ・10月に軽スポーツ交流会を開催する。
- ・チラシを作成し、自治会を通じて周知する。
- ・海津警察署などの協力を得て、多世代が聞いてもわかりやすい交通安全を学ぶ。
- ・修繕が必要な掲示板については、地区社協内で費用など、検討する。

※地区社協として、自治会での近隣ネットワーク、サロン、いきいきクラブ海津などでの三世代交流を推進する。情報提供や参加への勧奨など、地区社協で協力できることを実施する。

自助(自分でできること)

- ・積極的に参加する。
- ・事業の啓発活動を工夫する。

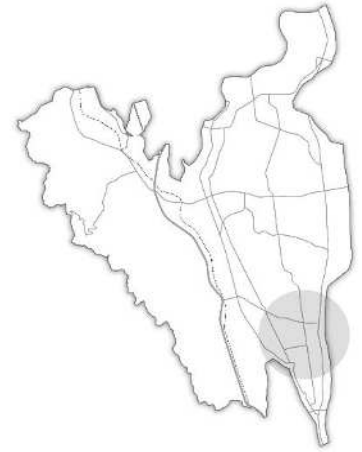
公助（行政や社協に依頼すること）

4

大江地区

【スローガン】

感謝のこころで
ふれあう地域づくり



【大江地区の人口】

	海津市		大江地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	1,843人	1,492人
対人口比	100.0%	100.0%	4.7%	4.8%
年少人口	5,187人	2,459人	199人	99人
年少率	13.2%	8.0%	10.8%	6.6%
高齢者人口	8,494人	11,512人	447人	581人
高齢化率	21.6%	37.4%	24.3%	38.9%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	244人	330人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	13.2%	22.1%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【大江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津温泉 宙舟の湯	いちい荘 (就労継続支援B型) (共同生活援助)	総合教育センター	海津市医師会病院
アクアワールド水郷 パークセンター			諏訪歯科医院
	しょうふう海津		
国営木曽三川公園	はつらつ海津		
長良川サービスセンター	はつらつ海津通所リハビリテーション		
大江警察官駐在所	グループホーム海津「福寿苑」		
大江郵便局	グループホーム千本松「福寿苑」		
大江体育館	グループホーム木曽三川「福寿苑」		
	デイサービスセンター福寿		
	シルバーホームひまわり会館三川公園 (有料老人ホーム)		
	どんぐりの木海津 (有料老人ホーム)		
	リハビリ型デイサービスひだまり		

令和7年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン	感謝のところでふれあう地域づくり
-------	------------------

重点課題	地域交流「地域住民間における交流する機会の拡充」
------	--------------------------

事業名	推進方法	評価
三世代交流の促進事業	○大江地区小運動会（秋）・さつまいも（夏・秋）・餅つき三世代地域交流会（冬） ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、周知活動を行う。 ・参加児童、保護者、地域住民と連携する。 ・海津小学校との関わりを保ち、昨年度に引き続き、出来る行事を継続する。	○
	○大江地区三世代交流グラウンドゴルフ等スポーツ大会（秋） ・参加者の募集など、自治会の協力を得て、三世代が集まる地域交流の場とする。 ・校区内外の子どもたちの参加を図るための方策を講じていく ・「大江地区社協だより」などで、開催と参加者募集の案内を掲載していく。 ・雨天となった場合の交流会を、実施可能な屋内種目を考えていく。	×
	○大江地区の広域なサロンを計画 ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい事業」を実施する。 ・参加者全員が、互いにふれ合える環境づくりをする。	○

現状および今後の方針
・8年度は、基本、大江地区の方々での行事（大江地区から市外の出たの方々については参加可）として活動していく。 ※身体の不自由な方の参加の希望があれば送迎の補助が可能（はつらつ海津） ※地域のために飲み物やパンなどの提供も可能である。（ 〃 ）

重点課題	防災「防災・減災に対する意識の高揚」
------	--------------------

事業名	推進方法	評価
防災意識の向上事業	○講習会などの開催 ・災害は身近にあるものだとし、防災意識と知識を高めるために開催する。 ・講習会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。 ・消防団員の参加を得て実施する。 ・昨年度実施できなかった防災備品などを活用した訓練を行う	○
	○災害対策 ・地区内における自主防災活動情報を共有する。 ・避難所（大江体育館、海津総合教育センター）の防災備蓄品を確認し、補充備品などを市に要望する。	△
	○広報誌による防災関連の情報を共有する。 ・防災意識と知識を高めるための最新情報を掲載する。 ・講習会の内容を記事等で紹介する。	○

現状および今後の方針
・参加型・体験型の講習会を今後も継続していく。特に、高齢化が進み、講習会の必要性を感じる。今後、一層参加者を増やす工夫をしていく必要がある。 ・消防団（大江地区）の参加を今後も要請していく。 ・体育館（避難所として活用）の空調設備の設置が今後待たれるところである。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン		感謝のこころでふれあう地域づくり	
重点課題		見守り「地域での見守り活動の積極化」	
事業名		推進方法	評価
見守り活動の促進事業	○子どもたちへの見守り ・登下校の見守りを行うため、学校と協力し、バス停及び、交差点毎の当番表を作成する。 ・増員を図るため、地区社協便りにて見守りボランティアを募集し、増員を図る。 ・地域住民に対して、通学路周辺での子どもたちの見守り活動への協力を呼びかける。 ・通学路の登下校時間帯での車両などの速度の規制について働きかける。	○	
	○生活支援推進会議 ・自治会長、福祉推進委員、民生委員児童委員、運営委員による福祉懇談会を開催する。 ・定期的に福祉懇談会を開催し、活動の具現化を協議する。	○	
	○くらしを支え合う活動・大江 ・生活支援「大江ん隊」の啓発と普及を図るためのサポーターを募る。 ・生活支援「大江ん隊」の充実を図るため、サポーターの集い、研修会を開催する。	○	
現状および今後の方針			
・通学バスの運行2年目となる。事故無く1年間が終わり良かった。 ・大江ん隊への支援要請が複数寄せられる様になった。認知度が上がったことや支援を必要とする高齢者が増えつつあることから、一層きめ細かな声掛けをしていく。 ・大江んバスの運行は利用者に喜ばれている。行き先を利用者の要望に合わせ、平田地内や多度地内の店舗に拡大していく。			

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 大江地区福祉活動計画評価表

スローガン		感謝のところでふれあう地域づくり	
重点課題		広報「地域住民に対する地区社協の認識度の向上」	
事業名	推進方法	評価	
地区社協の啓発活動事業	○地区社協の広報活動 ・自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配付を依頼する。 ・地区社協の活動が住民に伝わるよう、読みやすい内容になるような紙面とし、カラー版を継続する。 ・大江地区社協の事業などを広く知ってもらうため、地区の公共施設、商店、作業所、福祉施設、交番などへも広報紙を配布する。	○	
	○イベントや部会活動の広報活動 ・「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。 ・イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。 ・各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。 ・各自治会活動・行事などを掲載する。 ・健康づくりに関する情報を掲載する。 ・防災に関する最新情報などを掲載する。	○	
現状及び今後の方針			
・地域住民に読みやすく分かり易い内容となるような紙面づくりをしていく。昨年度開設した、地区社協のInstagramの充実を図っていく。 ・自治会員宅への配付とともに、高齢者施設、公共施設（郵便局、交番等）、商店・飲食店への配付を強化することで、当社協の認知度をより高めていきたい。			

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民に対する地区社協の認識度の向上
・ 事業名 地区社協の啓発活動事業	
・ 地域の課題（背景） ・ 広報紙の配布はされているが内容まで読まれていないことや高齢者は読むが、家族全員・若い世代はほとんど見ない ・ 広報紙の情報が、社協の活動報告という印象になり、住民が自分事として感じにくい。 ・ 紙媒体だけでは届きにくい層(共働き世帯、若い世代)の人は、紙を読まないことやSNS中心のため、全戸配布していても情報が届かない	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入） ①地区社協の広報活動 ・ 自治会長を通して、「大江地区社協便り」の早期配付を依頼する。 ・ 地区社協の活動が住民に伝わるよう、読まれる内容の工夫、事業参加につながる紙面づくりを考える。 ・ 大江地区社協の事業などを広く知ってもらうため、地区の公共施設、商店、作業所、福祉施設、交番等へも広報紙を配付する。 ②イベントや4部会の事業などの広報活動 ・ 「大江地区社協便り」に掲載するため、部会員が協力し、撮影や関係者に取材する。 ・ イベント開催の案内や参加者の募集を掲載する。 ・ 各部会の活動予定及び実施行事を掲載する。 ・ 防災に関する最新情報などを掲載する。 ・ 幅広い世代への情報発信の手段として、SNS（Instagram、Facebook、LINEなど）を活用する。	
自助(自分でできること) ・ 地域住民の参加を積極的に呼び掛ける。 ・ 広報紙作成などの体制づくりを強化する。（SNSなどの活用を含む）	
公助（行政や社協に依頼すること） ・ 一層充実した事業運営のために、活動助成金の増額を要望する。	

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	防災・減災に対する意識の高揚
・事業名 防災意識の向上事業	
・地域の課題（背景） ・地域住民の皆さんの防災・減災に対する関心の高さは年々大きくなってきている。 ・防災に関わる「講習会」などを継続して開催することは重要である。 ・何をすれば良いか、何に備えれば良いかなど、具体的な防災行動に迷う住民は多い。 ・大江地区では自主防災組織の編成が少ないため、災害対策として重要性を啓発していく。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入） ①講習会などの開催 ・災害は身近にあるものだ認識し、防災意識と知識を高めるために開催する。 ・講習会の開催は、地域住民の集まる機会を捉えて開催する。 ・消防団員の参加を得て実施する。 ・昨年度実施できなかった、防災備品などを活用した訓練を行う。 ②災害対策 ・地区内における自主防災活動情報を共有する。 ・避難所（大江体育館、海津市総合教育センター）の防災備蓄品を確認し、補充備品などを市に要望する。 ③広報紙による防災関連の情報を共有する。 ・防災意識と知識を高めるための最新情報を掲載する。 ・講習会の内容を記事などで紹介する。	
自助(自分でできること) ・避難場所など避難経路の確認 ・地域住民に対する防災意識の高揚を更に図るために、各地域住民にまで広げた防災訓練または、講習会を実施する。 ・備蓄品を確認し、備品などの充実を図るとともに、この備品を使つての実務訓練を行っていく。	
公助（行政や社協に依頼すること） ・地域住民に対する防災意識の高揚を図るため、積極的な働きかけをお願いする。 ・避難所運営ゲーム（HUGゲーム）を防災講演会などでの実施をお願いする。 ・備蓄品の充実を図るよう、継続して依頼していく。	

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民間における交流する機会の拡充
・事業名	
三世代交流の促進事業	
・地域の課題（背景）	
・大江地区の福祉施設の施設利用者にも参加できるような企画を考える。 ・地域ふれあい交流の促進のため、「まめでいりゃーす会・ひとり暮らし高齢者のつどい」を引き続き実施していく。 ・地区内の子どもたちの減少が大きな課題である。 ・海津小学校が開校し3年目となり大江地域への愛着が薄れつつある。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入）	
①大江地区運動会（秋）・さつまいも（秋）・餅つき三世代地域交流会（冬） ・より多くの地域の方にも足を運んでいただけるよう、周知活動を行う。 ・参加児童・生徒、保護者、地域住民と連携する。 ・海津小学校、日新中学校との関わりを保ち、昨年度に引き続き、出来る行事を継続する。 ②大江地区のサロンの計画 ・いきいきふれあいサロンの普及啓発を目的に、年に1回、70歳以上の高齢者を対象として、「まめでいりゃーす会」及び「ひとり暮らし高齢者のつどい事業」を実施する。 ・参加者全員が、互いにふれ合える環境づくりをする。	
自助(自分でできること)	
・イベントが行われる際には、16自治会・地域住民に参加の呼びかけをする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・高齢者のつどい事業拡充のため、助成金の増額を要望する。	

令和8年度 大江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域での見守り活動の積極化
・事業名 見守り活動の促進事業	
・地域の課題（背景） - 子どもたちの登下校の見守り活動の継続の重要性を確認し、各バス停において乗降時及び、交差点の見守りについて検討を進め、より多くの地域ボランティアを募る必要がある。 - 高齢化及び核家族化の進行によることなどから、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加などの対策は急務である。 - 令和5年度において、生活支援要綱を策定し、「大江ん隊」組織がスタートした。今後、更に利用が増えてくるものと考えられ、そのための準備を進めていく。 - 令和6年7月より始まった「大江んバス」の運行について、利用者の利用回数などのニーズに依っていく必要がある。	
推進方法（地域で出来ることをより具体的に記入） ①子どもたちの見守り - 登下校の見守りを行うため、学校と協力し、バス停及び、交差点毎の当番表を作成する。 - 増員を図るため、地区社協便りにて見守りボランティアを募集し、増員を図る。 - 地域住民に対して、通学路周辺での子どもたちの見守り活動への協力を呼びかける。 - 通学路の登下校時間帯での車両などの速度の規制について働きかける。 ②生活支援推進会議 - 自治会長、福祉推進委員、民生委員児童委員、運営委員による福祉懇談会の開催する。 - 定期的に福祉懇談会を開催し、活動の具現化を協議する。 ③くらしを支え合う活動・大江 - 生活支援「大江ん隊」の啓発と普及を図るためのサポーターを募る。 - 生活支援「大江ん隊」の充実を図るため、サポーターの集い、研修会を開催する。 「大江んバス」の利用者を増やすための働きかけをする。	
自助(自分でできること) - 積極的に見守り活動への参加。 - 地域の助け合い・支え合い活動への参加。	
公助（行政や社協に依頼すること） 小中高生が安心安全に登下校するために、運転者に対し、安全通行の指導と交通標識遵守の強化を求める。	

5

西江地区

【スローガン】

西江の絆

～みんなでふれあう支えあう～



【西江地区の人口】

	海津市		西江地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	1,865人	1,425人
対人口比	100.0%	100.0%	4.7%	4.6%
年少人口	5,187人	2,459人	238人	114人
年少率	13.2%	8.0%	12.8%	8.0%
高齢者人口	8,494人	11,512人	378人	555人
高齢化率	21.6%	37.4%	20.3%	39.0%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	194人	311人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	10.4%	21.8%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【西江地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
西江体育館			
海津安田簡易郵便局			

令和7年度 西江地区福祉活動計画評価表

スローガン	西江の絆～みんなでふれあう支え合う～
-------	--------------------

重点課題	地域での三世代間交流の機会の減少
------	------------------

事業名	推進方法	評価
三世代交流推進事業	○さつま芋の苗植え・収穫体験の実施 ・地域住民の畑を借り、子どもたちと地域住民の交流を深める目的で実施する。 ・5月に苗植え、10月に収穫体験を行う。草取りや水やりも育成会、部会員が協力して行う。 ・収穫後はみんなで分けあい、余った芋については市社協に一部寄付する。	○

現状および今後の方針
三世代交流部会の役員減少もあり、ものづくり体験は、予定しなかった。苗植え・収穫については予定どおり実施した。夏の猛暑により収穫量が少なく寄付は出来なかった。次年度、さつま芋の苗植え、収穫を実施予定。

重点課題	地域住民と子どもたちのふれあう機会が少ない
------	-----------------------

事業名	推進方法	評価
子どもを通じ、地域とのふれあい活動	①西江小学校の廃校により、海津小学校の対応が、もう少し具体的になっていなく、休部とする。	—
	②年末夜警の実施 ・12月26日～28日 夜8:00～9:00実施予定	○

現状および今後の方針
本年度は、年末夜警は予定どおり実施ができた。参加人数は、延べ11人であった。年末夜警は、親子に好評であり今後も続けていきたい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 西江地区福祉活動計画評価表

スローガン	西江の絆～みんなでふれあう支え合う～
-------	--------------------

重点課題	広域サロンの認知度を高め、イベント参加者を募る
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
西江地区ふれあい いきいきサロン事業	○西江地区ふれあいいきいきサロンの開催 ・自治会単位で開催しているサロンに働きかけ、計画の充実を図る。 ・サロンの内容を参加者が楽しめるよう検討していく。 ・広域サロン部会員としての自覚を持ち、協力意識を向上させる。 ・福祉推進委員の協力を得て、各自治会の高齢者へサロンの周知を行う。	○

現状および今後の方針
年6回（偶数月）の開催。福祉推進委員の協力により、参加への声かけ、サロン運営の協力や、アンケート調査結果に基づき内容も検討したことにより、無事計画どおり開催することができ、参加者に楽しんでいただくことができた。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域住民と子どもたちのふれあう機会が少ない
事業名	
子どもを通じ地域とのふれあい活動	
地域の課題（背景）	
・行事では地域住民と子どもたちとの交流はあるが、普段の生活では十分な交流がない。 ・子どもの数が減少し、地域住民との交流の場の減少している。 ・地域住民と子どもの顔見知りを増やし、安心して暮らせる地域をつくる。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・当面 年末夜警の実施 12月26日～28日	
自助(自分でできること)	
・積極的な案内などにより、参加者の増加を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・海津小学校に西江地区の児童に、案内チラシの交付。	

令和8年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	広域サロンの認知度を高め、イベント参加者を募る
事業名	
西江地区ふれあいいきいきサロン事業	
地域の課題（背景）	
・ひとり暮らし高齢者や日中ひとりだけになる方の地域交流する場が少ない。 ・地域住民の西江地区社協への関心が低い。 ・サロン部会の活動の徹底と部会員の協力。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○西江地区ふれあいいきいきサロンの開催 ・自治会単位で開催しているサロンに働きかけ、計画の充実を図る。 ・サロンの内容を参加者が楽しめるよう検討していく。 ・広域サロン部会員として自覚を持ち、協力意識を向上させる。 ・福祉推進委員の協力を得て、各自治会の高齢者へサロンの周知を行う。	
自助(自分でできること)	
・参加者が楽しめる内容を考える。 ・サロン部会会員を中心に、ご近所でサロンの呼びかけを行う。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

令和8年度 西江地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域での三世代交流機会の減少
事業名	
三世代交流推進事業	
地域の課題（背景）	
・ 地域での世代間交流の機会の減少。 ・ 核家族化が進み、子どもたちと高齢者が接する機会の減少。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
○さつま芋の苗植え・収穫体験の実施 ・ 地域住民の畑を借り、子どもたちと地域住民の交流を深める目的で実施する。 ・ 5月に苗植え、10月に収穫体験を行う。草取りや水やりも育成会、部会員が協力して行う。 ・ こども会を脱退した自治会が増えたため、今後の事業内容について検討していく。 ・ 収穫後はみんなで分けあい、余った芋については市社協に一部寄付をする。	
自助(自分でできること)	
・ 事業への積極的な参加、呼びかけ。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

6

今尾地区

【スローガン】

助け合いの心で
地域の和（輪）を広げよう



【今尾地区の人口】

	海津市		今尾地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	5,237人	4,100人
対人口比	100.0%	100.0%	13.3%	13.3%
年少人口	5,187人	2,459人	770人	373人
年少率	13.2%	8.0%	14.7%	9.1%
高齢者人口	8,494人	11,512人	1,114人	1,445人
高齢化率	21.6%	37.4%	21.3%	35.2%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	568人	769人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	10.8%	18.7%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【今尾地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所平田支所	今尾コスモスこども園		稲田クリニック
海津消防署平田分署	デイサービスセンター千の郷	今尾小学校	かわい整形外科
平田公園	グループホーム天の花	海津特別支援学校	辻中医院
海津市こども未来館 「ZüTTo」	デイサービス天の花		今尾歯科医院
			なのはな歯科クリニック
SSドローンプラザ			吉田歯科
ふれあいセンター			榊原医院
平田交番			
平田郵便局			

令和7年度 今尾地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合いの心で地域の和（輪）を広げよう
-------	---------------------

重点課題	地域の見守りについて
------	------------

事業名	推進方法	評価
地域の助け合い事業	- 交通安全啓発活動（ヨシツヤ、クレール平田、今尾小学校） - 児童見守り活動 - 児童連れ去り防止標語入り看板設置 - 交通安全教室の協力参加 - 夏休み前の水難防止チラシ配布 - 年金支給月に啓発活動 - 各種講演会 - 一人暮らし高齢者防犯ブザー確認 - 交通安全クイズ大会の実施（こんべいた運動会に協賛） - 部会の開催	○

現状及び今後の方針
「児童連れ去り防止標語」の設置力所がほぼ完了したので、それに代わるものを部会で検討していきたい。 - 町の観察と点検：通学路、公園など子供が集まりやすい場所を中心に町の観察と点検を行った。 又、地域内をいくつかのエリアに分け、チェックリストを基に定期的に巡回していきたい。

重点課題	地域交流について
------	----------

事業名	推進方法	評価
地域の輪を広げる事業	○三世代交流 ・防災の映画とビンゴ大会 ・みんなでラジオ体操&ビンゴ大会 ・寸劇（悪質商法）、お米のプレゼントクイズ、じゃんけん ○高齢者のつどい ○地域の集会場を利用して身近な集いの場を設ける ○部会の開催	○

現状及び今後の方針
寒い、暑い、暗い、遠いと、なかなかいい会場が無く、それに伴い参加率も悪かった。 令和8年度6月から今尾小学校の体育館に冷暖房が備わり、人が集まりやすくなると思う。 イベントを「参加したい！」と思えるような内容に、部会で検討する。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 今尾地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域交流について
事業名	
地域の輪を広げる事業	
地域の課題（背景）	
・三世代が集まっていたが、お互いの名前も知らずに帰ってしまうケースが多い。 コミュニケーションがもう少しとれるように「チーム戦」にしてチーム内で自己紹介などを行い、どこかでチームの人に会ったときに「お久しぶりです。〇〇さん」と気軽に声をかけられる、そんな三世代にそれぞれがなれば、地域の輪は必ず広がるはず。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
三世代交流会 ・映画、ビンゴ大会、ヒコーキ飛ばし （今尾小学校の体育館 6月14日） ・ラジオ体操&ビンゴ大会 （今尾小学校の体育館 8月） ・映画 （今尾小学校の体育館 1月） ・部会の開催 ・高齢者のつどい（11月）	
自助(自分でできること)	
イベントの積極的な参加。 参加したくなるようなチラシを作製（カラー）。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
円滑に事業が進むように助言、アドバイスを求めている。	

令和8年度 今尾地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域の見守りについて
事業名	
地域の助け合い事業	
地域の課題（背景）	
- 子どもたちの集まる場所や通学路などは本当に安全なのか。 - 今一度、大人目線と子ども目線で町の観察と点検を進めたい。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
- 児童の見守り活動 - 児童にかかわる街の観察と点検(公園、通学路など) - 交通安全教室の参加協力 - 夏休み前の「水難防止チラシ配布」 - 各種講演会の参加（各自） - ひとり暮らし高齢者防犯ブザー確認（未配布、電池交換） - 交通安全クイズ大会の実施（こんぺいた運動会にて）/海津警察に協力 - 部会の開催	
自助(自分でできること)	
自分の身は自分で守る。 無理はせず、自分に合った活動や行動に心がける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
円滑に事業が進むように助言、アドバイスを求めている。	

7

海西地区

【スローガン】

地域のネットワークで
安心安全な海西



【海西地区の人口】

	海津市		海西地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	2,981人	2,315人
対人口比	100.0%	100.0%	7.6%	7.5%
年少人口	5,187人	2,459人	390人	214人
年少率	13.2%	8.0%	13.1%	9.2%
高齢者人口	8,494人	11,512人	631人	859人
高齢化率	21.6%	37.4%	21.2%	37.1%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	312人	488人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	10.5%	21.1%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【海西地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海西公民館	わかば海西こども園		寺倉医院
クレール平田（道の駅）	地域密着型特別養護老人ホーム かいさいの華	海西小学校	
平田リバーサイドプラザ		平田中学校	
海西警察官駐在所	小規模多機能 かいさいの華		
海西郵便局			

令和7年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン	地域のネットワークで安全安心な海西	
重点課題	弱者の危険からの回避 高齢者のコミュニティへの参加推進	
事業名	推進方法	評価
地域見守りネットワーク 推進事業	○子ども達の見守りを行う。 ・安心して児童、生徒が登下校できるよう、地域全体で見守り活動を行う。 ・各自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員を中心に、毎月第一登校日に通学路に立ち、安全を見守る。	○
	○高齢者を見守り活動を行う。 ・ひとり暮らし高齢者宅及び高齢者世帯へふれあい訪問を実施する。	○
	○高齢者を囲む会を開催する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力で、ひとり暮らし高齢者（70歳以上）、高齢者世帯（75歳以上）を対象に、海西地区「高齢者を囲む会」を実施する。	○
現状及び今後の方針		
○子どもたちの見守り活動 地区社協として毎月第一登校日に行う。各地区で海西小学校の児童の登校時の見守り活動を行った。地域の方に児童の下校時の見守りも行ってもらった。今後も継続して活動していきたい。 ○高齢者を見守り活動 ひとり暮らし高齢者宅にふれあい訪問をした。各地区の自治会長・民生委員児童委員・福祉推進委員でひとり暮らし高齢者宅・高齢者世帯を訪問し、感染症防止のマスクなどを持参し、声かけを行った。 ○高齢者を囲む会の実施 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員の協力で、ひとり暮らし高齢者(70歳以上)、高齢者世帯(75歳以上)を対象に、「海西地区高齢者を囲む会」を海西公民館で行った。わかば海西こども園の園児との交流会もあり、ひ孫みたいな子どもたちと楽しくすごすことができた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン		地域のネットワークで安全安心な海西
重点課題		地域の交流の希薄
事業名	推進方法	評価
三世代交流の推進事業	○三世代交流事業を推進する。 にこにこ子育て支援事業を推進する 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、子ども会との連携や三世代交流事業の活発化を図るため、にこにこ支援事業を活用して子どもから高齢者、障がい者まで幅広く交流が図れる行事などを行う。 海西地区三世代交流レクリエーション大会	○
	○サロン活動を推進する。 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、海津いきいきクラブと連携を図りながら、閉じこもりがちなひとり暮らし高齢者や障がい者のみなさんが、気軽に地域交流ができるようサロン活動を推進する。また、サロンの立ち上げ活動の支援(サロン活動未地区へのアドバイス)などを行う。	○
	○視察研修を行う。	○
現状及び今後の方針		
○三世代交流事業の推進 三世代交流事業を行った。にこにこ子育て支援事業を活用して、育成会・子ども会と協力し小・中学生・保護者・高齢者まで一同に参加して海西小学校で「レクリエーション大会」を行った。岐阜聖徳学園大学の学生たちから指導を受けながら楽しく活動ができた。幅広い交流もはかれた。 ○サロン活動の推進 広域サロン活動は、対象者の交通手段の確保が難しく、実施が見込めていない。今のところサロン活動がない地区においては、「ミニサロンから始めましょう」とアドバイスをもらった。サロン活動が各地区に広がっていくようにはたらきかけようと思う。 ○視察研修の実施 平田町にある住宅型有料老人ホーム「天の花」へ施設訪問をした。施設長の話を聴き、施設内を見学させてもらい、有意義な時間をすごした。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 海西地区福祉活動計画評価表

スローガン	地域のネットワークで安全安心な海西
-------	-------------------

重点課題	各自治会の防災意識の欠如
------	--------------

事業名	推進方法	評価
防災意識(知識)向上及び 防災啓発の推進事業	○防災について研修会を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員と協力して、消防署の職員や専門家を招いて防災に対する知識や技術などを学ぶ。講座を充実して、専門的な話が聴けるとよい。 ・地域住民自身が、災害をより身近なものであると認識し、危機管理意識を高める。	○
	○防災対策 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士、他団体と連携を図りながら、具体的な避難場所、防災備品などの検討や危険個所の確認をする。	△
	○避難所運営訓練を行う。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、他団体と連携を図りながら、避難所運営訓練を行う。	×

現状及び今後の方針
○防災について研修を行う 防災研修は各自治会でいった。備蓄の入れ替えなどを行った。地域住民が防災をより身近なものと認識し、危機管理意識を高めていくため、共通課題として考えることができるような「場」があるとよい。 ○避難所運営訓練を行う 時期が違う2回(2日間)を予定をしていたが、1回目は熱中症予防のため、2回目はインフルエンザ流行のため行うことができなかった。今後は、時期を考慮しながら計画・実行したい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 海西地区福祉活動計画

重 点 課 題	弱者の危険からの回避 高齢者のコミュニティーへの参加推進
事業名	
地域見守りネットワーク推進事業	
地域の課題（背景）	
・ 高齢者の増加 ・ 近隣との関係の希薄化 ・ 海西地区8自治会長を中心にした事業活動の展開 ・ 子どもの安全な登下校を見守る体制の充実を図る。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○子どもたちの見守りを行う。 ・ 安心して児童生徒が登下校できるように、地域全体で見守り活動を行う。 ・ 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区社協役員を中心に、毎月第一登校日に通学路にたち、安全を見守る。 ○高齢者の見守り活動を行う。 ・ ひとり暮らし高齢者宅、及び高齢者世帯へふれあい訪問をする。 ○高齢者を囲む会を開催する。 ・ 自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員などの協力で、ひとり暮らし高齢者（75歳以上）、高齢者世帯（75歳以上）を対象に、海西地区「高齢者を囲む会」を実施する。	
自助(自分でできること)	
・ 子どもたちや高齢者に積極的に声をかける。 ・ ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への見守り	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・ 助成金、場所、物品などの協力、活動への助言	

令和8年度 海西地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域交流の希薄
事業名	
三世代交流の推進事業	
地域の課題（背景）	
・少子化・高齢化や共働き家庭の増加で三世代で交流する機会が少なくなってきた。 ・海西8地区のかかわる機会が少ない。 ・各地区内での住人のつながりが希薄化している。 ・世代を超えた関わりが少ない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○三世代交流事業を推進する。 にこにこ子育て支援事業を推進する。 ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、子ども会との連携や三世代交流事業の活性化を図るため、にこにこ支援事業を活用して、子どもから高齢者、障がい者まで幅広く交流が図れる行事などを行う。 三世代交流レクリエーション大会 ○サロン活動を推進する。 ・自治会役員、民生委員児童委員・福祉推進委員、いきいきクラブ海津と連携しながら、閉じこもりがちなのひとり暮らしの高齢者や障がい者のみなさんが、気軽に地域交流ができるようにサロン活動を推進する。また、サロン立ち上げの活動の支援(サロン活動未実施地区へのアドバイス)などを行う。 ○視察研修を行う	
自助(自分でできること)	
・自分から進んであいさつをする。 ・地域行事に積極的に参加し、交流を図る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・助成金、場所、物品などの協力、活動への助言	

令和8年度 海西地区福祉活動計画

重点課題

各自治会の防災意識の欠如

事業名

防災意識（知識）向上及び防災啓発の推進事業

地域の課題（背景）

- ・災害に対する意識、知識が乏しい。
- ・各自治会において防災への意識が乏しいため、組織や連携ができていない。
- ・災害時における避難場所の明確化と備蓄品などの充実が不十分である。
- ・危険箇所がはっきりしていない。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】

○防災について研修会を行う。

- ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士等と協力して、消防署の職員や防災の専門家を招いて防災に対する知識や技術などを学ぶ。講座を充実し、専門的な話が聴けるとよい。
- ・地域住民自身が、防災がより身近なものであると認識し、危機管理意識を高める。

○防災対策

- ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士、他団体と連携を図りながら、具体的な避難場所、防災備品などの検討や危険箇所の確認をする。

○避難所運営訓練を行う。

- ・自治会役員、民生委員児童委員、福祉推進委員、地区内在住防災士、他団体と連携を図りながら、避難所運営訓練を行う。

自助(自分でできること)

- ・自分自身の命を大切にする。
- ・自治会行事に積極的に参加し、つながりを密にし、連携する。

公助（行政や社協に依頼すること）

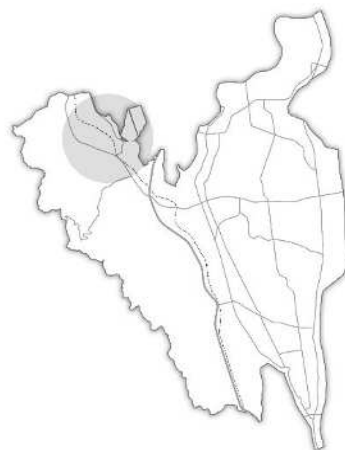
- ・海津市総務課危機管理室や防災士による研修への支援や訓練への指導・助言
- ・消防署員による救急救命時の動きなどの指導と講習

8

下 多 度 地 区

【スローガン】

見守って 声掛けあって
地域の絆は 下多度から



【下多度地区の人口】

	海津市		下多度地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	2,368人	1,869人
対人口比	100.0%	100.0%	6.0%	6.1%
年少人口	5,187人	2,459人	297人	133人
年少率	13.2%	8.0%	12.5%	7.1%
高齢者人口	8,494人	11,512人	604人	718人
高齢化率	21.6%	37.4%	25.5%	38.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	344人	423人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	14.5%	22.6%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【下多度地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所下多度支所	やろまいか (就労移行支援) (就労継続支援B型)	下多度小学校	養南病院
海津市みかげの森 「プラザしもたど」			
北部コミュニティセンター	オレンジハイツ (グループホーム)		
下多度郵便局	特別養護老人ホーム 長寿の里・南濃		
	デイサービスセンター 長寿の里・南濃		
	いっぶくの郷 春藤園 (デイサービス) (有料老人ホーム)		

令和7年度 下多度地区福祉活動評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	① 住民同士の交流機会が少ない ② 高齢者の交流する機会が減少している
------	--

事業名	推進方法	評価
しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）	1) 地域交流会の開催：『しもたどフェスティバル』の開催 2) 開催日：令和7年8月14日（木曜日）に開催を計画 3) 会 場：プラザしもたど （駐車場全面 ＋ 南濃コミュニティーセンター含む全館） 4) しもたどフェスティバル実行委員会に加わり、部会の活動を実施する。 ①『ぬり絵・射的・ストラックアウト・輪投げ・スポーツ吹矢』などを企画して実施する。 ②新規イベントを企画検討する。 5) 自治会・中学校・小学校などに周知して、協力を要請する。 6) 中学生・小学生など、各種団体・個人へ、参加を募る。 7) 各種感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会などの関係者と相談して実施する。 8) 真夏の開催で最近の危険な暑さのため、スタッフ・参加者年齢を考慮した暑さ対策を検討して実施する。	○

現状及び今後の方針
・ぬり絵参加者で、下多度小学校の児童だけでなく、近隣小学校の児童の参加や、中学生の参加が増加した。 ・5種類の遊具による遊びのほかに幼児用遊具室を加えて、参加方法（景品など）・PRを検討する。 ・種目別の景品取得の偏りを減少できたと思われるが、一部で景品の不足があり増量を検討する。 ・中学生のボランティア担当者は、他種目への参加などの分散を検討する。 ・中学生以上、親子・三世代などの参加を含めた新企画（景品なし）を検討したい。

評価 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和 7 年度 下多度地区福祉活動評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
重点課題	高齢者の交流機会が少ない

事業名	推進方法	評価
広域サロンの開催	・下多度地区全体を対象にする「しもたどサロン」を開催する。 ・地域の多くの高齢者の集いの場になるよう「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて開催する。 ・自治会長会や、自治会区域で行われているサロンを通じて、参加の呼びかけを行う。 ・お弁当を用意し、皆で会食ができるようにする。 ・出し物は、昨年のように参加型の取り組みを検討していく。 ・リーフレットをつくり、自治会毎に集約をお願いするとともに、地域のサロンでも参加の呼びかけをお願いする。 ・自治会との連携もしっかりと取り、内容なども相談できるようにしていくことを検討する。 ・他地区の活動を参考にする。	○

現状及び今後の方針
ひとり暮らし高齢者の集いを兼ねたしもたどサロン、今年度も 80 人を超える参加をいただき、楽しんでいただけた。 毎年、ひとり暮らし高齢者の約半数の皆さんに参加いただいていたが、今年度は 31 名中 8 名に参加にとどまったのが気がかり。 来年度も継続実施する。

評価 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 下多度地区福祉活動評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	子どもたちのつどう機会の創出
------	----------------

事業名	推進方法	評価
子どもの活動を豊かにする事業	・子ども、保護者、子ども会、学校と連携し、楽しい遊びを通じて地域の良さを再確認してもらう。 ・講師を招き、生物の多様性を勉強し、外来魚の駆除事業をする。 ・だんだん公園キャンプ場でバーベキューと星空観察会を実施する。 ・お寺を利用した地元歴史の勉強会と縁日を実施する。	○

現状及び今後の方針
計画した3つの行事を、天候にも恵まれて無事に実施できた。 ①津屋川の堤防東、株池で外来魚の駆除を目的とした魚釣り大会 ②小学校の体育館で「夏の大三角形の勉強」と、運動場での天体望遠鏡を使った星空観察 ③本慶寺の本堂および境内を利用した縁日 次年度も魚釣り大会と縁日のほか、児童及び保護者の希望を聞きながら、新しい催しを検討する。

評価 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 下多度地区福祉活動評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	高齢者の買い物や通院の手段がない高齢者の支援
------	------------------------

事業名	推進方法	評価
高齢者 移送サービス事業	・高齢者のセーフティネットとして、高齢者送迎サービス事業を継続実施する。 ・継続して、協力会員の募集を行う。 ・協力会員の負荷軽減のため、適宜利用会員に対して節度ある利用の呼びかけをする。 オンデマンドバスの活用 親族や知り合いへの応援要請 養老鉄道の利用 特定ボランティアへの集中回避 など	○

現状及び今後の方針
新たに、長寿の里・南濃と協働で「買い物ツアー」が10月から実現した。 ボランティアのインセンティブとして、市の「高齢者等移動支援事業補助金制度」を利用して、令和7年7月以降の活動に対して、ボランティアに謝礼金を支払うこととした。 「高齢者移送サービス」および「買い物ツアー」を継続実施する。

評価 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 下多度地区福祉活動評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	高齢者の生活支援ニーズが多岐にわたり拡大している
------	--------------------------

事業名	推進方法	評価
生活支援「ちょこっとお手伝い」事業	・高齢化に伴い、高齢者が自分でできなくなった作業を支援する。 【対象】 民生委員児童委員の見守り対象世帯とする。 1 時間程度でできる比較的簡単な作業 ・依頼内容は草刈り、庭木の手入れに集中している。 他にも困りごとがあると思われるため、民生委員児童委員を通じてリーフレットなどで、隠れたニーズの顕在化と利用を促進する。	○

現状及び今後の方針
利用者の拡大はなかったが、以前から制度を利用している方から継続して申し込みを受けて活動している。

評価 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 下多度地区福祉活動評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保
------	----------------------

事業名	推進方法	評価
通学路安全確保事業	・下多度小学校、PTAなどと協力し、通学路の安全点検を継続するとともに、通学児童の見守り活動を行い、安心・安全を確保する。 ・スクールガードボランティアによる下校時の見守りを継続する。 見守りは、できる人ができる範囲で、登校日に実施する。 原則として毎月第1・第3水曜日を、重点活動日として活動する。 重点活動日は、下多度小学校と調整して決定する。	○

現状及び今後の方針
年々、児童人口の減少で寂しい限りではあるが、引き続き活動を継続する。

評価 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和 7 年度 下多度地区福祉活動評価表

スローガン	見守って 声掛けあって 地域の絆は 下多度から
-------	-------------------------

重点課題	防災意識の高揚と、各家庭の備えの強化
------	--------------------

事業名	推進方法	評価
啓発活動による 防災意識の高揚と、 各家庭の備えの強化	○自主防災組織への働きかけと提案 ○啓発活動の推進 ・防災かわら版 → 2 か月に 1 回発行 ・防災ポスター → 3 か月毎に更新 ・研修会の開催 ○避難所の開設、運営方法の勉強会	○

現状及び今後の方針
令和 7 年度の自治会への働きかけ ・6/28 自治会長会 土石流災害と南海トラフ地震についての説明会 ・10/4 自治会長会 昭和南海トラフ地震での近隣の被害状況と家庭の備えの推進 ・10/12 志津新田自治会 同上 ・2/1 西園自治会役員会 同上 令和 8 年度について ・自主防災組織への働きかけと提案は、今後も続けていきたい。 ・防災かわら版 → 隔月発行を継続する。 ・防災ポスター → 3 か月ごとの更新を継続する。 ・研修会の開催を検討する。

評価 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 下多度地区福祉活動計画

重 点 課 題	① 住民同士の交流機会が少ない ② 高齢者の交流する機会が減少している
----------------	--

事業名
しもたどフェスティバル開催事業（協働開催）

地域の課題（背景）
1) 自治会単位の交流事業は実施しているが、一段と減少して地区全体の交流の場を創ることがより一層必要と思われる。 2) 子どもたちをはじめ、各年代が一堂にして集まる機会や、顔を合わせる機会がないと思われる。 3) 地域全体で集まり会話し、笑い楽しみ、顔見知りになることで、地域交流が深くなると考えている。 4) 人口減少の今だからこそ、地域一体の活動が必要であり重要と思われる。

推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】
1) 地域交流会の開催：『しもたどフェスティバル』の開催 2) 開催日 ： 8月13日(木)に開催を計画 3) 会 場 ： ブラザしもたど（駐車場全面＋南濃コミュニティセンターを含む全体） 4) 下多度フェスティバル実行委員会に加わり、部会活動の実施。 ① 『ぬり絵・射的・ストラックアウト・輪投げ・スポーツ吹き矢』を実施する。 ② 新規イベントを企画検討する。 5) 自治会・中学校・小学校に周知して、協力を要請する。 6) 中学生・小学生等、各種団体・個人へ参加を募る。

自助（自分でできること）
1) しもたどフェスティバル実行委員会に加わって、活動計画の立案を提案する。 2) 各種感染症防止対策を、海津市・自治会・実行委員会等の関係者と相談して実施する。 3) 真夏の開催であり、昨今の危険な暑さから、スタッフ・参加者年齢を考慮した対策を検討し実施する。 4) 地域の住民ともに、常に新たな企画を検討して積極的に取り組む。

公助（行政や社協に依頼すること）
1) 下多度自治会をはじめ、小中学校へ協力をお願いして参加を募る。 2) 開催についての後援、場所の使用許可、広域広報等の協力を、海津市教育委員会等へお願いする。

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	高齢者の交流機会が少ない
事業名	
広域サロン事業	
地域の課題（背景）	
海津市全体でも高齢化が進んでいるが、下多度地区はさらに高齢化が進んでいる。 自治会区分の地域で開催されるサロンも、一部でサロンがない地域がある。 現在行われているサロンでは、参加者が減少傾向にある。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○ 地域の多くの高齢者の集いの場となるよう「ひとり暮らし高齢者の集い」を兼ねて、下多度地区全体を対象に、新年度も「しもたどサロン」を開催する。 ○ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の、感染症にも十分注意を払う。 高齢者の感染は、重症化リスクが大きい。 手洗い消毒やマスク着用など、しっかりと対策を講じ感染の予防に努める。 ○ 弁当を用意、一堂で皆んなで会食することで、地域の皆さんの交流の場を作る。 ○ 参加型の催し物を検討する。 ○ 自治会との連携もしっかりと取り、内容等についても相談する。 ○ サロンの開催内容については、他地区の活動を参考にする。	
自助（自分でできること）	
「しもたどサロン開催案内」を、自治会を通じて回覧と集約を依頼するとともに、各区域のサロンにも参加の推進を依頼する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
市社協に、他地区の活動などの助言をお願いする。	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	子どもたちの集う機会の創出
事業名	
子どもの活動を豊かにする事業	
地域の課題（背景）	
急速に進む少子化が進むにつれ、下校後はもとより休日でも地域内で子どもたちの遊ぶ姿がほとんど見られない。 年少期の思い出づくりができていない。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
小学校および子どもや保護者と連携し、子どもたちに地域の良さが再認識できる活動として、以下の催し物を実施する。 ・ 海津市の歴史など、勉強会の開催 ・ 外来魚の駆除に関する事業 ・ 寺院を利用した縁日の開催	
自助（自分でできること）	
学校・児童・PTA と連携し、多くの児童が参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
ボランティアの育成	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	通院や買い物等、外出手段のない高齢者の支援
事業名	
高齢者移送サービス事業	
地域の課題（背景）	
下多度地区には、病院、商店、金融機関がなく、コミュニティバスもない。 外出手段がない高齢者は、通院や買い物などで困窮する人が多い。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
【高齢者移送サービス事業】 高齢者のセイフティーネットとして、継続実施する。 令和7年7月度から開始した協力会員に対する謝礼金制度を継続し、協力会員の増員を図る。 【買い物ツアー】 地域の福祉施設「長寿の里・南濃」と協働で、令和7年10月から開始した毎月第3火曜日の午前と午後に各1便で実施している「買い物ツアー」を継続実施する。 当初、民生委員児童委員見守り対象者に限定して開始、その後サロンの利用者にも声掛けをしているが、思ったほど利用人数は延びていない。 更なるPR活動を行い、外出手段のない高齢者の利用拡大を図る。 利便性の向上のため、毎月第3火曜日の午前午後だけの運用を、長寿の里・南濃と交渉し増便を図る。	
自助（自分でできること）	
利用会員には、近くの親族や近隣世帯への依頼、オンデマンドバスや養老鉄道の活用を呼びかける。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
オンデマンドバスの増車と、利用範囲を近隣市町に拡大して欲しい。	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	高齢者のちょっとした困りごとへの支援
事業名	
生活支援「ちょっとしたお手伝い」事業	
地域の課題（背景）	
高齢化とともに、生活全般にわたり今までできていたことが、困難になることが多くなる。 依頼作業の実績はほとんどが草刈りで、一部庭木の手入れにとどまっている。 他の支援要請がないのが、親族やご近所の支援で足りているなら望ましい状態であるが、他にも困りごとがあることが懸念される。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
高齢化に伴い、高齢者が自分でできなくなった支援活動事業を継続する。 【対象】 民生委員児童委員の見守り対象世帯とする。 1 時間程度できる比較的簡単な作業 民生委員児童委員を通じてリーフレットなどで隠れたニーズの利用を促進する。	
自助（自分でできること）	
ゴミ出しなどの短時間でできる手助けは、ご近所同士が積極的に助け合う「互近助*」活動を行う。 *互近助 防災システム研究所の山村武彦の提唱する運動	
公助（行政や社協に依頼すること）	
従来通り、民生委員児童委員が高齢者宅の訪問の機会に、地区社協の事業の PR をお願いする。	

令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	子どもたちの安全・安心な登下校環境の確保
事業名	
通学路安全確保事業	
地域の課題（背景）	
少子化が進行し、令和7年度の下多度小学校の児童数は56人、令和8年度は44人と、少子化が急速に進んでいる。 不審者の、路上での声掛け事案がときどき発生している。小学生は、中学生の2倍以上発生している。 下校時の声掛け事案は、登校時の2倍以上発生している。 登校時の見守り活動も大切であるが、とりわけ下校時の見守り活動が重要である。	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
交通事故防止および不審者の声掛け抑制のため、従来から進めているスクールガードボランティアによる見守り活動を継続する。 スクールガードボランティアは活動できる日、活動できる場所で見守り活動を実施する。 重点活動日を、第1・第3水曜日の下校時の見守りとする。 年度初めに、下多度小学校と登校日のスケジュールの調整を行う。 登校日の変更や、下校時間の変更などは、学校からスマホアプリ「すぐる」を使って、活動に齟齬がないようにする。	
自助（自分でできること）	
スクールガードボランティア以外であっても、通学路に面した住民は、登下校時に見守り活動に参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

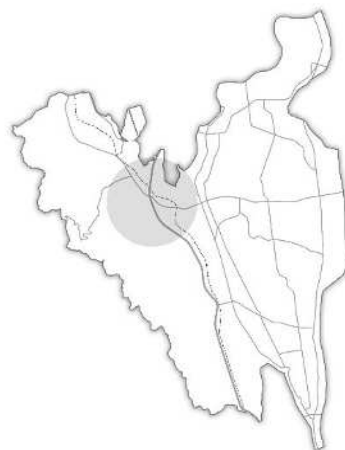
令和8年度 下多度地区福祉活動計画表

重 点 課 題	防災意識の高揚と各家庭の備えの強化
事業名	
南海トラフ大地震に対する各家庭の備えの強化	
地域の課題（背景）	
・南海トラフ大地震の防災対策推進指定区域内にあり、大規模災害が危惧される。 ・地震の危惧に対し、各家庭における備えが不十分である。 令和4年2月に実施した防災アンケートの結果 （各家庭の備えに関する大半の項目が100点満点で、10点台～30点と極めて低い点数であった。）	
推進方法【地域で出来ること（互助）をより具体的に記入】	
○ 自主防災組織への働きかけと提案 ○ 啓発活動の推進 ・防災かわら版 → 2か月に1回発行 ・防災ポスター → 3か月ごとに更新 ○ 研修会の開催 現地視察も含め検討する。 ○ 避難所開設訓練の実施 自治会と協議し検討する。	
自助（自分でできること）	
地域住民自身による「南海トラフ自身への家庭の備え」	
公助（行政や社協に依頼すること）	
① 住民に対し「南海トラフ地震への家庭の備え」の啓発をもっと実施して欲しい。 ② 自治会に対し「南海トラフ地震への家庭の備え」を、地域ぐるみで推進するよう指導して欲しい。	

9

城 山 地 区

【スローガン】

心ふれあう城山のまち
あなたの笑顔が私の幸せ

【城山地区の人口】

	海津市		城山地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	6,219人	4,819人
対人口比	100.0%	100.0%	15.8%	15.7%
年少人口	5,187人	2,459人	776人	435人
年少率	13.2%	8.0%	12.5%	9.0%
高齢者人口	8,494人	11,512人	1,451人	1,800人
高齢化率	21.6%	37.4%	23.3%	37.4%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	704人	989人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	11.3%	20.5%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【城山地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所城山支所	認定こども園庭田保育園		伊藤内科・神経科
月見の里南濃（道の駅）	こまの認定こども園		ひばりクリニック
南濃総合福祉会館ゆとりの森	アグリピア農場 （就労移行支援） （就労継続支援B型）	城山小学校	田中歯科クリニック
羽根谷だんだん公園（さほう遊学館）		城南中学校	中野歯科
南濃中部防災 コミュニティーセンター	オレンジ・ガーデン （デイサービス） （有料老人ホーム）		
南濃交番	デイサービス輝		
南濃温泉「水晶の湯」	有料老人ホーム輝		
海津市まちづくり協働センター	有料老人ホーム輝イースト		
南濃郵便局			
南濃山崎簡易郵便局			

令和7年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	安全は城山地区住民の意識改革から（安全委員会）
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
子どもの見守りと、住民の防災意識の向上	登下校時の見守りパトロールをする。 （いきいきクラブ海津、保護者と共に）	○
	子ども110番の家の見直しと、協力依頼をする。 （区長、自治会長、保護者と共に）	○
	災害時の安否確認のため、自治会防災調査票（9区・16自治会）の調査・保管の確認をお願いする。 ア. 災害時の安否確認調査票 イ. 災害被害調査 ウ. 被害状況報告書	○
	災害に対する防災避難知識の講習会を開催する。 ・城山小学校体育館避難所開設訓練『城山小学校児童及び地域住民とともに』	○

現状および今後の方針

- ・現状としては、交通安全指導や保護者（スクールボランティア）のほか有志の方が通学路に立ち、見守り活動を行った。
- ・こども110番の家を学校と相談して、今後も見直しをする。
- ・今年は、城山小学校4年生児童と一緒に避難所開設訓練を行った。来年度も今年同様に、避難所開設訓練で小学生の親子さんを巻き込んだ訓練を実施したいと思った。

重点課題	高齢者への多様な支援が必要である（福祉委員会）
------	-------------------------

事業名	推進方法	評価
高齢者支援サポート事業の推進	ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りをする。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に）	○
	ひとり暮らし高齢者のつどいを実施する。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、日赤奉仕団と共に）	○
	高齢者の城山生活サポート事業を推進する。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、城山生活サポーターと共に）	○
	いきいきサロンの設立を広める。 （区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に）	○

現状および今後の方針

- ・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りが、民生委員児童委員・福祉推進委員・市社協職員の方々などの協力で行われている。
- ・ひとり暮らし高齢者のつどいの参加者数が福祉委員の必死のお誘いにもかかわらず増えない。
- ・城山生活サポーター事業は、順調に件数を伸ばしているがサポーターの高齢化により危険が伴う作業が減り、単純作業が多くなった。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	住民の健康づくり、地域交流の場づくりが必要である（体育委員会）
------	---------------------------------

事業名	推進方法	評価
住民の健康づくりと、スポーツレクリエーション大会の運営	子どもと共に楽しめる行事としてスポーツレクリエーション大会を実施する。 （スポーツクラブ、体育推進員、各種体育指導者と共に）	○
	三世代交流の「公園学習」を小学校運動会で実施する。 （区長、自治会長、保護者、小学校と共に）	○
	城山地区夏まつりの開催に合わせ、スポーツレクリエーション大会イベントで参加する。	○

現状および今後の方針	
・昨年に引き続きスポレク大会を開催し、約120名の参加を得て6種類のゲームを行い、盛大に実施できた。 ・三世代交流事業は、「公園学習」を実施し、城山小学校1・2年生69名とともに「だんだん公園」でゲームを行い交流を深めた。 ・「城山の夏祭り」においては中学生ボランティアとともにレクリエーションゲームを行い、盛大に開催することができた。	

重点課題	青少年の健全育成が大切である（青少年委員会）
------	------------------------

事業名	推進方法	評価
青少年の健全育成	中学生ボランティアを募集し、共に活動する。（夏祭り、スポーツレクリエーション大会）	○
	独自の活動を行う。（わくわくチャレンジ親子史跡巡り）	○
	小・中学校との連携を深め、活動を支援する。	○
	様々な教育情報を収集し、今後の活動のあり方を検討する。	△

現状および今後の方針	
・城山地区の夏祭りやスポレク大会において、中学生ボランティアの募集を行い、一緒に活動することができた。小学校の親子を対象とした「わくわくチャレンジ親子史跡巡り」も実施することができた。次年度も同様の活動を計画しながら小中学生と地域社会のコミュニティ形成を図っていききたい。 ・故郷の魅力を再発見できるような活動内容を提案していききたい。	

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 城山地区福祉活動計画評価表

スローガン	心ふれあう城山のまち あなたの笑顔が私の幸せ
-------	------------------------

重点課題	城山住民の地域交流の場が少ない（地域振興委員会）
------	--------------------------

事業名	推進方法	評価
地域交流活動の推進	城山の夏まつりを開催する。 （区長、自治会長、各種団体長と共に）	○
	城山の夏まつりへの協力を呼びかける。	○
	各種地域行事やまつり等の成功に向けて研修する。 （区長、自治会長と共に）	○

現状および今後の方針
・第10回城山の夏まつりは、約1,200名の来場者がありとても盛況に終わることができた。毎年保育園児や各種団体による演技で盛り上げていただき感謝している。また、城山地区社協に皆さんや中学生の皆さんにもボランティア協力として参加していただき感謝している。 8年度の夏まつりについては、海津市文化会館及び保健センターの閉鎖に伴い、トイレや電源、水道等について利用不可となり中止することとなった。他の利用可能な場所を検討したが、多くの来場者の安全面を最優先に考慮し苦渋の決断となった。 来年度は今まで参加いただいた各種団体そして楽しみにしていただいている市民の皆さんのためにも、地域交流の場を絶やさないよう新企画を検討していきたい。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	安全は城山地区住民の意識から（安全委員会）
事業名	
子どもの見守りと、住民の防災意識の向上	
地域の課題（背景）	
・通学路の安全面で心配なことが多くみられる。 ・交通安全や不審者対策などで、見守りボランティア活動が不足している。 ・災害時の安否確認のため、自治会ごとで名簿の準備が必要である。 ・多様な災害に対する防災避難知識の講習会の開催が必要である。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①登下校時の見守りパトロールをする。 （いきいきクラブ海津、保護者と共に） ②子ども110番の家の見直しと、協力依頼をする。 （区長、自治会長、保護者と共に） ③災害時の安否確認のため、自治会防災調査票（9区・16自治会）の調査・保管の確認をお願いします。（区長又は自治会長） ア．災害時の安否確認調査票 イ．災害被害調査 ウ．被害状況報告書 ④災害に対する防災避難知識の講習会を開催する。 ・城山小学校体育館避難所開設訓練（城山小学校児童及び地元住民と共に）	
自助(自分でできること)	
・登下校時の見守りパトロールに協力する。 ・子ども110番の家の場所を再度確認をする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・子ども110番の家への更新手続きを依頼する。（申請・認定・看板）	

令和8年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者・弱者への多様な支援が必要である (福祉委員会)
事業名	
高齢者支援サポート事業の推進	
地域の課題（背景）	
・ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増えてきている。 ・高齢者の方で日常生活の困りごとが増えてきている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への声かけや見守りをする。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に) ②ひとり暮らし高齢者のつどいを実施する。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、日赤奉仕団と共に) ③高齢者の城山生活サポート事業を推進する。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、城山生活サポーターと共に) ④いきいきサロンの設立を広める。 (区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員と共に)	
自助(自分でできること)	
・近所の高齢者に対し、見守りや声かけをする。 ・近所の高齢者に小さな手助けをする。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・認知症対策支援	

令和8年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	住民の健康づくり、地域交流の場づくりが必要である (体育委員会)
---------	-------------------------------------

事業名
住民の健康づくりと、スポーツレクリエーション大会の運営

地域の課題（背景）
・住民の健康づくりの機会が少ない。 ・子どもと共に楽しめる行事がない。 ・城山地区住民運動会がなくて、さびしい。 ・昨今、人と人の繋がりが疎遠である。（人と人の接点づくり）

推進方法（地域でできることをより具体的に記入）
①子どもと共に楽しめる行事としてスポーツレクリエーション大会を実施する。 （スポーツクラブ、体育推進員、各種体育指導者と共に） ②三世代交流の「公園学習」をだんだん公園で実施する。 （区長、自治会長、保護者、小学校と共に） ③城山地区夏まつりの開催に合わせ、スポーツレクリエーション大会イベントで参加する。

自助(自分でできること)
・健康づくりの活動に進んで参加する。

公助（行政や社協に依頼すること）
・レクリエーション用具の借用

令和8年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	青少年の健全育成が大切である (青少年委員会)
事業名	
青少年の健全育成	
地域の課題（背景）	
・地域の活動に子どもの積極的な参加を呼びかける。 ・学校などと連携を図り、小中学生の健全育成を図る。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・中学生ボランティアを募集し、共に活動する。（夏祭り、スポーツレクリエーション大会） ・独自の活動を行う。（わくわくチャレンジ親子史跡巡り） ・小・中学校との連携を深め、活動を支援する。（他委員会活動への協力） ・様々な教育情報を収集し、今後の活動のあり方を検討する。	
自助(自分でできること)	
・多様な活動を通して子どもたちの参加を呼び掛け、子どもたちの健全育成を支援する。 ・地域の子どもの積極的に声をかける。（あったか言葉、挨拶など）	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・行政、学校、こども園などと連携を図る。	

令和8年度 城山地区福祉活動計画

重 点 課 題	城山住民の地域交流の場が少ない (地域振興委員会)
事業名	
地域交流活動の推進	
地域の課題（背景）	
・城山地区全体での地域交流活動が活発になってきているが、更に充実したものにしていきたい。 ・区や自治会ごとの行事や三世代交流の場がさらに増えるとよい。 ・城山地区夏まつりを実施するにあたって協力者をもっと増やしたい。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
各種地域行事やまつりなどの成功に向けて研修をする。 (区長、自治会長と共に)	
自助(自分でできること)	
・地域の交流活動に進んで参加する。	
公助（行政や社協に依頼すること）	

【スローガン】

助け合い支えあう石津地区



【石津地区の人口】

	海津市		石津地区	
	2008年 4月1日	2026年 4月1日	2008年 4月1日	2026年 4月1日
人口	39,321人	30,774人	8,085人	6,303人
対人口比	100.0%	100.0%	20.6%	20.5%
年少人口	5,187人	2,459人	1,053人	450人
年少率	13.2%	8.0%	13.0%	7.1%
高齢者人口	8,494人	11,512人	1,695人	2,466人
高齢化率	21.6%	37.4%	21.0%	39.1%
後期高齢者人口	4,077人	6,476人	703人	1,468人
後期高齢化率	10.4%	21.0%	8.7%	23.3%

※年少人口は15歳未満の人口

※高齢者人口は65歳以上の人口

※後期高齢者人口は75歳以上の人口

【石津地区の社会資源】

主要公共施設	福祉施設	教育機関	医療機関
海津市役所石津支所	石津認定こども園		可知医院
海津市消防署南濃分署	認定こども園石山保育園		大井耳鼻咽喉科
働く女性の家	クローバー (就労継続支援B型)	石津小学校	やまだ眼科クリニック
南濃地域防災センター			中尾皮膚科クリニック
石津郵便局	地域密着型特別養護老人ホーム 長寿の里・海津		野村クリニック
松山簡易郵便局			森木医院
	デイサービスいろは		石川歯科
	まりすりハビリセンター		木村歯科医院
	香和ショートステイ		曽根歯科医院
	デイサービスよもぎ		南濃歯科
	ショートステイよもぎ		
	グループホーム南濃「福寿苑」		
	石津地区社協事務所		

令和7年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	高齢者の移動手段の確保
------	-------------

事業名	推進方法	評価
高齢者移動サービス	・ボランティア（運転、予約受付配車）の恒常的な発掘 ・デマンド交通網とのマッチングで地域住民のニーズに対応 ・ボランティア（運転、受付）間で利用者情報を共有し、「見守りネットワークに情報提供をする体制の構築	○

現状及び今後の方針		
・地域の高齢化が進み、今後ますます重要となる事業である。 ・ボランティアの高齢化が進み体調不良となり、ボランティアの確保が課題である。 ・関係団体と連携及び個人折衝でボランティアの確保に努める。 ・利用者の高齢化による課題が顕在化しているため、区長、自治会長、民生委員児童委員と連携し、利用者の状況を注視する必要がある。 ・受付ボランティアと運転ボランティアの連携、情報共有。 ・サービス利用者の個別の課題について役員間で共有し、対策を講ずる。		

重点課題	高齢者の憩いの場の提供
------	-------------

事業名	推進方法	評価
石津地区サロン運営事業	・毎月第4金曜日に定期開催。 ・参加者増員に向け、「地区社協だより」、関係団体、個別連絡など幅広い周知。 ・併設する「朝市」の出品内容に充実し、参加者の増員を図る ・石津地区内でサロン事業未実施の区、自治会にサロン実施への支援を行う ・サロンに合わせて、野菜や果物などの朝市に開催し、参加者の増員を図る	○

現状及び今後の方針		
・毎月定期開催の周知のため、「地区社協だより」によるPRの継続。 ・朝市の内容充実のため、役員だけでなく地域の人に幅広く声掛けを行う。 ・コロナ禍前と比較すると参加者が減ってはいるが、毎回60名が参加している。 ・石津地区内で新たなサロンの立ち上げはなかったが、地区内の多くの人にサロンの良さを知ってもらうことができた。		

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	地域コミュニティの核である小学校との連携
------	----------------------

事業名	推進方法	評価
世代間交流推進事業	①米づくり体験活動（石津小学校の行事に協力） ・農事組合田鶴ファームおよびJAにしみの経済営農センターの協力を得、地区社協の地区社協の特徴を合わせた支援を行い、「米生産」の1年間の体験学習を行い、児童に地域とのつながりを感じてもらう。	○
	②さつま芋作り体験活動（石津小学校、認定こども園に協力） ・田鶴地区の農業ボランティアの指導を得て、地区社協の有志、他地区の協力も得ながら焼芋パーティーを広域連携で開催をする。	○
	③福祉標語の募集 ・石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・全員に参加賞を贈呈し、優秀作品（12点）を表彰し、石津地区社協だよりに掲載する。	○

現状及び今後の方針
・計画通りに実施ができた ・ボランティアの高齢化のため、活動に協力してくれる人を募る。

重点課題	地区社協の活動を広く周知する
------	----------------

事業名	推進方法	評価
「地区社協だより」の発行	（会議） ・総務部会の打合せにSNSなどを駆使し、効率化を図る ・運営委員会を年6回、理事会を年2回、理事会を年1回以上開催	○
	（基盤強化） ・事務所の整備、管理、保有車両やPCなど機材の維持、保全 ・次世代との交流の輪を広め、基盤強化を図る	△
	（情報発信等） ・編集会議を開催し、年6回「石津地区だより」を発行する ・地区社協設立15周年の記念事業などを企画する	○

現状及び今後の方針
・2ヶ月に1回、「石津地区社協だより」を発行。自治会に回覧するほか、コンビニに設置し幅広く周知した。 ・石津地区社協設立15周年を記念し、「石津地区社協だより」の特別号を全戸配布したところ、毎号見たいと希望があったため、市社協のHPに掲載をする ・地区社協の活動を周知するとともに、読みやすく、見やすい紙面とし、活動を報告していく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和7年度 石津地区福祉活動計画評価表

スローガン	助け合い支え合う石津地区
-------	--------------

重点課題	子どもからお年寄りまで安心・安全暮らせる地域づくり
------	---------------------------

事業名	推進方法	評価
①スクールボランティア	・石津小学校と連携し、登下校時の見守りを継続する。 ・ボランティア間の情報共有を図り、区・自治会と連携し、人材確保に努める。	△
②防犯パトロール、青色パトロール	・青色防犯パトロールの実施により、安全対策を行っている地域であることのアピールをする。 ・高齢者などの行方不明者の捜索やごみの不法投棄のパトロールなど、行政や警察との協力関係を継続。 ・ボランティアの協力者の確保に努め、パトロールの回数を維持する。	○
③防災	・防災士会や行政機関と連携し、学習会や講演会を計画する。 ・区、自治会と密に連携し、事業を行う。 ・地区社協運営委員会での情報共有を図る	○

現状及び今後の方針
①スクールボランティア ・学校、保護者と連携し、登下校時の見守りを継続。 ・小学校発行の「みかんの里」をボランティアへ配布し、学校との連携、情報共有。 ・区、自治会と連携し、新しい人材確保。 ・気温30度を超える日を中心とした下校の支援。 ②防犯パトロール、青色防犯パトロール ・ボランティアの確保に努め、パトロールの回数を維持する。 ・行方不明者の捜索、ごみの不法投棄の発見の協力の継続。 ・小学校や警察の事業に積極的に参加し、連携および情報共有に努める。 ③防災 ・今後も防災士会、日本赤十字奉仕団、消防団、区、自治会や行政と連携し、防災に関する情報を発信していく。

《評価》 ○計画どおりできた △計画の一部ができた ×計画どおりできなかった

令和8年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	持続可能な地区社協の活動のあり方を検討する
---------	-----------------------

事業名
地区社協活動の効率化と事業内容の見直し

地域の課題（背景）
・地区社協活動を地域住民に知ってもらい、ボランティア活動への参加を呼び掛ける努力を継続する。 ・ボランティアの高齢化に伴い、無理な活動はしない。

推進方法（地域でできることをより具体的に記入）
（会議・打合せ） ・打合せの効率化のため、SNSなどの手段を活用する。。 ・運営委員会は年6回開催する。 ・理事会は年2回以上開催し、石津地区の課題抽出を行う。 ・評議員会は理事会からの提案を基に、原則年1回以上開催する。 （会計事務） ・事務所の整備、保有車両などの維持・保全を図る。 ・海津市、海津市社協と連携し、会計事務の適正化に努める。 ・管理人材の育成を図る。 （情報発信） ・「石津地区社協だより」を年6回発行し、各区、自治会に配布する。 ・SNSなどを活用した情報発信に取り組む。 （その他） ・石津地区社協設立（2011.1）から15年の節目を迎えるため、記念事業などを企画する。

自助(自分でできること)
・「石津地区社協だより」の内容充実のため、編集委員会を月2回開催する。 ・市内の地区社協との意見交換、共同などに取り組む。

公助（行政や社協に依頼すること）
・情報の提供（組織、活動実態など）。

令和8年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の移動手段の確保
事業名	
高齢者移動サービス	
地域の課題（背景）	
・地域の「高齢化、独居化」が進み、重点的に取り組むべき事業である。 ・近年利便性が向上したデマンド交通にすら不便を感じる高齢者がいる。「ドア・ツー・ドア」での支援が必要。 ・事業を支えるボランティアの高齢化がさらに進み、退任者が増えている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・ボランティア（運転、予約受付・配車）の発掘に自治会などに協力を依頼する。 ・デマンド交通網とのマッチングを進める。 ・利用者情報を「見守りネットワーク」などへ提供するなどして地域で高齢者を支える。	
自助(自分でできること)	
・区長、自治会長、民生委員児童委員と連携し、ボランティア活動への協力依頼をするとともに各地域の高齢者の生活状況を見守る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・参考となる情報の提供。 ・必要経費に対する助成。	

令和8年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	高齢者の憩いの場の提供
事業名	
石津地区サロン運営事業	
地域の課題（背景）	
・高齢化、独居、核家族化が特に進む地域である。 ・高齢者が集う機会がなくなり、交流の場が少ない。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・毎月1回（第4金曜日）に地区社協事務所にて「コーヒーサロン」として定期的を開催する。 ・サロンに合わせて、朝市（野菜や果物など）を開催し、参加者の増員につなげる。	
自助(自分でできること)	
・「地区社協だより」の掲載による広報と口コミにより参加者を集める。 ・「朝市」出品者を増やし、内容を充実させる。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・市内、市外のサロン運営等の情報提供。	

令和8年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	地域コミュニティの核である小学校との連携
事業名	
世代間交流推進事業	
地域の課題（背景）	
・地域での交流を図る機会が減少している（少子化）。 ・世代交流の活動や行事が減少している。 ・石津小学校を中心とした「コミュニティスクール」活動に協力を求められている。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
①米づくり体験活動（石津小学校5年生対象） ・農事組合田鶴ファームおよびJAにしみの経済営農センターの協力を得、地区社協の特徴に合わせた支援を行い「米生産」の1年間の体験学習を行い、児童に地域とのつながりを感じてもらう。 ②さつま芋作り体験活動（石津小学校、認定こども園に協力） ・田鶴地区の農業ボランティアの指導を得て、地区社協の有志も参加する。他地区社協からの協力を得て「焼き芋パーティー」を広域連携での開催支援をする。 ③福祉標語の募集 ・石津小学校の6年生を対象に、福祉に関する標語を募集する。 ・全員に参加賞を贈呈し、優秀作品（12点）を石津地区社協だよりに掲載する。	
自助(自分でできること)	
・農業ボランティアなど、活動協力者を募る。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・他地区の開催状況等の情報を提供して欲しい。	

令和8年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
事業名	
ボランティアにより登録車両を活用した地域内パトロールの実施	
地域の課題（背景）	
・空き家などへの「忍び込む」や空き巣などの犯罪の発生、小学校児童の下校時の安全確保への対策が必要な状況。 ・行方不明高齢者やごみの不法投棄など、行政機関との連携が必要な事案が発生する恐れがある。 ・ボランティアの高齢化と減少。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・青色防犯パトロールを実施することで安全対策ができている地域であるとアピールをする。 ・ボランティア参加者の確保に努め、パトロールの回数を維持する。 ・行方不明者の捜索やごみの不法投棄の発見などの活動。 ・石津小学校、行政、警察等との連携、情報共有。	
自助(自分でできること)	
・児童の下校時間帯を中心とした見守り活動。 ・区、自治会との連携およびボランティアの協力依頼。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
警察との連携、情報の提供。	

令和8年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
事業名	
災害対策	
地域の課題（背景）	
・災害はいつ発生するか分からないが、必ず発生することを前提とした対策をする。 ・区、自治会は災害発生時は住民の安全確保の担い手となることから準備や訓練の必要がある。	
推進方法（地域でできることをより具体的に記入）	
・防災士会や行政機関と連携し、学習会や講演会を計画する。 ・区、自治会との連携事業を実施する。	
自助(自分でできること)	
・防災士会との日常的なつながりを保つ。 ・地区社協運営委員会での情報共有。	
公助（行政や社協に依頼すること）	
・行政機関からの情報や物品の提供。	

令和8年度 石津地区福祉活動計画

重 点 課 題	子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせる地域づくり
---------	----------------------------

事業名
スクールボランティア

地域の課題（背景）
・車社会となり、児童の登下校時の安全確保。 ・ボランティアの高齢化による活動の低下傾向。 ・夏季の熱中症対策（低学年児童の遠距離下校）支援。

推進方法（地域でできることをより具体的に記入）
・石津小学校と連携した登下校時の見守り活動を継続する。 ・区、自治会と連携してボランティアの確保を図る。

自助(自分でできること)
・通学距離2km以上の1，2年生児童を熱中症対策として保有車両を使用し、下校支援を行う。

公助（行政や社協に依頼すること）
・地域の運転手への安全運転の啓発。 ・他地区の活動団体との情報交換会などの実施。

関 係 資 料 等

資料1. 海津市地域福祉推進計画

資料2. 地区社会福祉協議会活動

計画の策定にあたって

計画策定の背景

近年、急速な少子高齢化や核家族化の進展、家庭や地域でお互いに助け合う相互扶助の低下、個人の価値観の多様化や地域のつながりづくりの希薄化など、地域を取り巻く環境は変容しつつあります。これにより、地域ではひきこもり、孤独死、生活困窮者、ヤングケアラー、ダブルケア、8050 問題などの新たな福祉課題が発生しており、平準化された既存サービスでは対応しきれない制度の狭間で課題を抱えた方が適切な公的支援を受けられないという問題が起きています。

また近年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出や地域での活動が制限され、従来の様々な活動が停滞し社会的な孤立感が高まるなど、市民の生活に大きな影響を及ぼしています。このような中、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、福祉制度によるサービスのみで支えることは難しく地域住民や関係団体、社会福祉協議会が共通の認識のもと協働して、様々な支え合いや助け合いの活動に取り組んでいくことが必要となっています。

国においては、平成 28（2016）年 7 月に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部」を設置し、制度・分野ごとの縦割りや「支え手」、「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として地域社会に参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、地域住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく「地域共生社会」の実現を目指しています。

地域福祉の基本的な考え方

「地域福祉」とは、高齢者や障がい者、子育て家庭、生活困窮者が、年齢や属性に関わらず、それぞれの地域においてだれもが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、市民・地域を中心とした様々な主体が協働のもと、地域で支援を必要としている方の様々な困りごとや不安を、ともに支え合い、助け合いながら、市民一人ひとりが地域における福祉課題の解決に向けて取り組む考え方です。地域福祉を推進するためには、自分ができることは自分で取り組み社会参加に向けての力を高める「自助」、地域住民同士が支え合う「互助」、社会保障制度等の「共助」、行政による「公助」が連携・協力によって解決する取り組みが必要です。本市では、「互助」、「共助」は住民が互いに支え合うという理念が共通していることから、本計画では「互助・共助」という表記をします。

これまでの策定状況と新たな計画

これまで海津市では行政としての施策や考え方を位置づけた「地域福祉計画」と、市社協の取組みを位置づけた「地域福祉活動計画」に基づき、3期にわたって地域福祉を推進してきました。

「地域福祉計画」は、社会福祉法第107条の規定に基づき、市町村が行政計画として策定するものであり、「地域の助け合いによる福祉（地域福祉）」を推進するために、人と人のつながりを基本として、「顔の見える関係づくり」、「ともに生きる社会づくり」を目指すための「理念」と「仕組み」をつくる計画です。

また、「地域福祉活動計画」は、社会福祉法第109条の規定に基づく民間組織である社会福祉協議会が活動計画として策定するものであり、「すべての住民」、「地域での福祉活動を行う者」、「福祉事業を経営する者」が相互に協力して、地域福祉の推進を目的とする実践的な活動・行動計画です。

複雑化・複合化した地域課題が増加する中、現行の仕組みでは対応しきれない多様な生活課題に対応するため、市と市社協の連携を深めながら、実効性の高い施策を展開する必要があります。そのため、新たな計画では、これまでそれぞれに策定していた地域福祉計画と地域福祉活動計画を統合し、ひとつの「地域福祉推進計画」として策定します。

計画の位置づけ

本計画は、海津市総合計画を上位計画とし、福祉の各分野における共通事項を定め、他の分野別計画の上位に位置づけます。また、本計画においては、社会福祉法第106条の5に基づき「重層的支援体制整備事業実施計画」に加え、成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条に基づき「成年後見制度利用促進計画」、再犯の防止等の推進に関する法律第8条に基づき「再犯防止推進計画」を包含する計画として策定します。加えて、本計画は、国の示す「市町村地域福祉計画ガイドライン」に基づき、「子ども・子育て支援事業計画」、「介護保険事業計画」、「障がい者計画」などの地域福祉の視点や理念・方針・推進方向を明示し、地域における展開を総括する役割を持ちます。

計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。また、社会環境等の変化に対応し、必要が生じた場合にはその都度見直します。

地域福祉推進計画の基本理念と施策体系

基本理念

つながりの輪で だれもが笑顔あふれるまち かいづ

本市では、市民一人ひとりが助け合いの心を持ち、年齢や障がいの有無、住んでいる地域に関わらず、あらゆる主体がつながり、共に支え合うことで、だれもが地域において自分らしく笑顔で暮らせるまちを目指していきます。

基本目標1 地域福祉意識の向上

施策	施策の方向
1 人権尊重の推進	人権問題を正しく理解するため、講演・研修をはじめ、広報を通じて人権啓発活動を行います。
2 支え合う意識の醸成	子どものころから支え合う意識を育むことができるよう、学校と地域が連携して、福祉教育や地域活動への積極的な参加を促進します。
3 情報提供の充実	様々な情報媒体を活用して、福祉に関する情報をわかりやすく発信します。

基本目標2 地域福祉活動の推進

施策	施策の方向
1 地域福祉のネットワークづくり	地域における見守りや、ネットワークづくりを支援し、市・市社協が連携して複雑化・複合化する地域課題に対応できる支援体制を整備します。
2 地域福祉の担い手づくりの推進	担い手を発掘するために、情報を発信するとともに、ボランティアセンターの強化を図ります。また、各種講座等を開催し、地域のリーダーを育成します。
3 交流・つながる場づくりの推進	市民の様々な悩みごとや困りごとが早期相談や支援につながるように、地域における声かけやあいさつを促進するとともに、幅広い世代が交流できる機会を増やすことで、顔の見える地域づくりを推進します。
4 生活困窮者への支援の充実	生活困窮者に対し、生活福祉資金や食料支援を行うことにより自立支援を推進し、生活を支えるとともに、貧困・孤立した子どもに対しても、学習支援や子どもの居場所づくりを推進します。
5 権利擁護の支援 【成年後見制度利用促進計画】	権利擁護が必要な人に対し、相談業務、後見申立費用や報酬助成など、成年後見制度の利用促進に向けた支援を行います。また、包括的な支援を行うため、中核機関を中心とした権利擁護ネットワークを構築します。
6 再犯防止・立ち直り支援 【再犯防止推進計画】	再犯によって市民が犯罪被害に遭うことを防止し、安心・安全に暮らせる社会とするため、地域と行政、関係団体が連携し、犯罪等をした人が地域で孤立することなく生活を送ることができるよう、切れ目のない支援を行います。

基本目標3 地域福祉の環境づくり

施策	施策の方向
1 相談体制の充実	市民からの相談を幅広く受け止められる包括的支援体制を構築します。
2 福祉サービスの充実	住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療・保健・福祉・介護サービスの充実を図ります。
3 住みよい環境づくり	だれもが暮らしやすいまちを目指し、ユニバーサルデザイン、バリアフリー化を進めるとともに、安全な移動手段を確保します。
4 防災・防犯の推進	安心して暮らせる地域を目指し、地域の防災体制の強化を図るとともに、防犯対策を推進します。

5つの重点施策

本計画では、本市の課題に対応すべく特に推進していく5つの施策を「重点施策」として定めています。

1 多機関協働体制の構築

複雑化・複合化した地域課題に対応するため、多機関連携の中核を担う協働体制を構築し、支援関係機関の役割分担や支援の方向性の整理を行います。

2 地域でのつながりづくり

すべての市民が隣近所や地域とのつながりを継続的に持ち続けられるよう、つどいの場の確保・充実を図り、助け合い・支え合いのコミュニティづくりを行います。

3 地域福祉の担い手育成

地域の担い手を発掘・育成するため、地域福祉コーディネーターを配置し、各種ボランティア養成講座を行うとともに、ボランティアセンターを通じて、市民や団体のボランティア登録を推進します。

また、福祉広報活動により市民の福祉意識の高揚と相互扶助意識の醸成を図ります。

4 相談・支援体制の充実

市民からの様々な相談を幅広く受け止め、利用可能な福祉サービスを提供する支援機関につなげるため、包括的な相談支援体制を整備します。

また、社会的孤立を防ぐため、訪問等を通じて継続的支援を行います。

5 移動支援

高齢者等の日常生活における移動手段を確保するため、既存の移送サービスが継続して提供されるよう、地域の人材発掘・育成、運営補助などの支援を行います。

また、新たな移送サービスが開始されるよう、立ち上げ支援を行います。

1. 地区社会福祉協議会（地区社協）とは・・・

目 的

地区社協は、住民一人ひとりが、自ら進んで、生きがいをもって、健康で安心して暮らせる、地区の福祉活動を進めることを目的とします。

活 動 範 囲

海津市では、小学校区を単位としています。

組 織

地区社協は、区・自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員、ボランティア、その他の福祉関係団体などから選出された方々によって構成される住民組織です。

それぞれの地区によって組織体制や関わる方は多少違ってきます。

2. 地区社協の役割

○住みよいまちづくりの推進役

子育て、高齢者とのふれあい、障がい者支援、青少年をとりまく環境、地域の連帯意識など様々な問題について、住民がともに考え行動する組織です。

○各種団体の協力体制の場づくり

地域内で活動している各種団体の連携により、多様化した問題の解決を図ります。

○ボランティア活動の輪を広げる活動

各種事業や育成講座の開催を通じて、子どもから高齢者までを対象にボランティア意識の向上を図り、活動の輪を広めます。



▲城山地区社協の生活支援活動

3. 市社協と地区社協の関係

市社協と地区社協は、対象とする範囲は違いますが、地域における福祉課題を解決するため、住民が主体となって活動するという基本的な目標は共通しています。また地区社協は市社協とともに地域福祉の重要な組織です。したがって、市社協と地区社協は緊密に連携して活動を進めていく必要があります。

市社協は、情報提供や連絡調整を行うなどして地区社協の活動を支援します。

4. 地区社協設立の経過

設立年月日	地 区 名
平成22年 3月25日 3月27日 4月17日 10月 7日	今尾地区社会福祉協議会 海西地区社会福祉協議会 高須地区社会福祉協議会 吉里地区社会福祉協議会
平成23年 1月23日	石津地区社会福祉協議会
平成25年 1月19日 4月26日 6月28日	下多度地区社会福祉協議会 西江地区社会福祉協議会 大江地区社会福祉協議会
平成26年 4月 4日	東江地区社会福祉協議会
平成27年 6月21日	城山地区社会福祉協議会

5. 地区社会福祉協議会連絡会

各地区社協の代表者が集い、相互の情報交換と、運営に関する研修及び調査等を行うことを目的に「地区社協連絡会」を開催しています。

連絡会は、各地区の会長、副会長で構成されています。また、必要に応じて各地区社協の役員も参加します。



▲地区社協連絡会の様子

6. 地区社協の活動

地区社協では、各地区の福祉課題などに応じて、様々な事業を自主的に企画・実施します。

活 動 例

○地区福祉座談会、地区福祉懇談会

地区の福祉課題について、多くの方が意見交換をし、課題の発見や活動の推進を行います。

○スクールボランティア

児童・生徒の登下校時の見守りを行います。

○友愛ふれあい訪問

見守りが必要と思われる方に対して、困りごとがないかを聞くなどして、健康状態や安否の確認をします。

○広域ふれあいいきいきサロン

集会所などに、高齢者や障がい者、子育てをしている方などが集まり、話をしたりレクリエーションを楽しむことで、仲間づくりを行います。

○生活支援活動

地域住民の日常生活の困りごとを把握し、住民同士が助け合う仕組みづくりを行います。（例：ゴミ出し、草取り、庭木の剪定、買い物代行など）

○高齢者送迎サービス

公共交通機関を使って外出が困難と思われる高齢者などに対し、住民の協力を得て送迎ボランティア活動を行います。

○三世代交流事業の実施

子ども会や育成会、老人クラブなど様々な世代間の交流を通じ、地区の輪を広げます。

○会食会

ひとり暮らし高齢者などを対象に、地区ごとに敬老会やお花見会などを行います。

○地区防災活動

○広報紙の発行

○ボランティアのつどい

○研修会・講演会 など



▲西江地区社協 高齢者外出・買い物支援サービス

海津市地域福祉活動計画

**令和 8 年度
地区福祉活動計画**

◆令和 8 年 7 月◆

発行 社会福祉法人 海津市社会福祉協議会

〒503-0411 海津市南濃町駒野 8 2 7 番地 1

(海津市南濃総合福祉会館 ゆとりの森)

TEL:0584-55-2300 FAX:0584-55-1990



海 津 市 地 域 福 祉 活 動 計 画

令和8年度 地区福祉活動計画

社会福祉法人 海津市社会福祉協議会